

[第1号議案]

1-1. 2021 年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
 5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
 6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
 7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
 10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
 12. 法人運営
- 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 - 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
 - 付3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
 - 付4. 国際会議一覧
 - 付5. 表彰等
- その他・附属明細書

2021 年度 事業報告

1. 概況：重点活動

コロナ禍の継続によるオンライン会議の定常化、デジタル庁発足、大学入試に「情報」採用、DXの機運の高まりなど、デジタルや情報技術に対する期待の高まり、デジタルや情報技術を活用して変化を引き起こそうとする動きが活発になっている中、本会も委員会体制の再構築など学会業務の変革の推進、学会事業の健全な運営、将来の発展に向けた中長期視点での事業の見直しと強化を進めてきた。これらの取組みや支部を中心としたジュニア向けイベントなどによるジュニア会員の増加を主因とし、会員数は2009年度以来12年ぶりに2万人を超えるところまで回復した。財務的には収支が予算計画から改善し黒字化したことで、依然として中長期の成長のための大型投資が可能な財務状況を維持しており、将来の発展に向け「60周年宣言」を実現するために①広く新しい情報処理ユーザへの学会活動の訴求、②広く新しい情報処理ユーザへの新しいサービスの提供、③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備の3つを柱とした中長期計画を実行する施策をマーケティング、教育に関して具体的な検討に着手した。また、デジタルの日に対応したイベントを日本IT団体連盟との共催セミナーをはじめとして本部、支部それぞれで多数企画し、デジタル庁発足、デジタルの日制定を盛り上げた。情報科目の大学入試への導入に向けても継続的な活動を行い、2025年度の共通テストから「情報」が加えられることとなった。情報処理技術の使い手であるIT業界との関係強化のための日本IT団体連盟との提携を活かし、支部と連携した活動の検討に着手した。このような社会に対して本会の専門性を還元する取組みも数多く成果を上げた。調査研究活動、学会誌の発行、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においては、コロナ禍を受けての活動のオンライン化を進めつつ、新たな取り組みにも挑戦して成果を上げている。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものあげられる。

【学会の変革に向けた成果】

- 学会の変革を目指し委員会体制を再構築し、業務効率化、意思決定のスピードアップ、広報宣伝の充実化、ニューノーマル時代に対応したデジタル化を推進した。
- 新世代企画委員会を発展的に解消し、本委員会で行っていた業務を会誌編集委員会、調査研究運営委員会へ引き継いだ。
- 社会の多様性を支持するダイバーシティ宣言を学会Webに公開した。また、公正な学会活動の規範となる倫理綱領の見直しを実施し、次年度からの公開にむけた準備を完了した。
- 情報規格調査会における国際標準化活動において、安全保障貿易管理の視点からの審査が必要と判断し、学会ホームページで取り組みについて内容を公開し、体制を整備した。
- 2012年度より毎年度開催し2020年度をもって終了したSamurAI Codingは、過去に開催した本イベントのアーカイブ作業を完了し、その活動を終了した。

【サービス充実化に向けた成果】

- 内閣官房からの要請に応え、デジタルの日検討委員会のメンバに学術界から参加、「デジタルの日」を盛り上げるための特設サイトの開設やIT連との共催セミナーや支部主催セミナーなどの関連イベントを多数実施した。
- 全国大会をハイブリッド開催とし、50周年記念大会以来11年ぶりに講演数が1,500件を超えた。
- 情報処理学会データサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）を2021年4月に公開した。

また、ITSS レベル 3 相当の知識・スキル認定制度の検討を進めた。

- 連続セミナーは開催回数をこれまでの倍の 12 回とし、1 回の開催時間を半分にし、オンラインでの参加しやすさを目指して開催した。
- 今年度、「情報通信ネットワークとデータの活用」分野を対象に、MOOC 教材 5 つのコンテンツを公開した。
- 参加無料の情処ウェビナーを継続し、学会プレゼンス向上に貢献した。
- IPSJ・TTC 共催オンラインセミナー「世界で広がる AI 倫理の議論と活用に向けた取り組み」を開催した。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激にオンライン化が進む環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、各種活動のニューノーマル対応や業務の DX 化などに積極的に取り組み、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要であり、下記の施策を実施した。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化やジュニア会員制度を定着・活用に取組んだ結果、会員数増に転じ、2009年度以来12年ぶりに会員数2万人の大台を達成した。
- ② 委員会体制を見直し、総務財務運営委員会と企画政策委員会を統合した経営企画委員会を新設し、業務効率化や意思決定のスピードアップを図った。
- ③ 将来の発展に向け投資を伴う中長期施策として、学生会員の正会員への誘導、会員の脱退防止につながる会員サービスの検討に着手し、会員に対して実施したアンケートやヒアリング結果を基にサービス案を抽出した。
- ④ 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を進めるために支部 Web サイトのシステム統合を継続した。
- ⑤ アドバイザリーボードより、地域に根差しつつグローバルな視点を持って社会に貢献する「グローバル公共哲学」の観点からの提言を受け、経営企画委員会で検討した。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度、各種セミナー、イベントの実施、各種団体、企業との連携による活動推進に加え、相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）と連携した活動を推進した。

- ① 日本 IT 団体連盟（IT 連）と「ニューノーマル時代に向けた産業界や学界の対応・戦略」と題し、デジタルの日共催セミナーを開催した。また、ANIA と本会の支部同士の連携議論に着手した。
- ② 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については、引き続き個人認証および企業認定の応募者拡大の取り組みを進めた。2021 年度の実績においては、新たに 345 名の認定情報技術者が誕生したが、今後企業認定の新規獲得や個人・企業とも CITP の更新継続といった点が課題である。また、今年度は個人認証における DS 資格認証の実現に向けて、DS 戦略推進委員会の元で、ITSS レベル 3 相当の知識・スキル認定制度の検討を進めた。更に希望者にはデジタルの認定証としてオープンバッジの配布を開始した。
- ③ デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなどを計画通り実施し、IT エンジニアの育成ならびに会員増に貢献した。
- ④ 日本 IT 団体連盟（IT 連）、全国地域情報産業団体連合会（ANIA）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）、インターネット協会（IAJ）、情報通信技術委員（TTC）、日本データ通信協会（JADAC）、新世代 M2M コンソーシアム（M2M）、日本規格協会（JSA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）などの IT エンジニア

を対象とする団体や企業との連携を深めた。

1.3 学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進、今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

- ① 2025年実施の大学入学共通テストへの「情報」の出題実現に向け、提言を4回実施するとともに、FITにて日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会、電子情報通信学会とともに、公開シンポジウムを運営した。大学入試センター情報関係基礎の問題、回答、見解を公開した。
- ② 国立情報学研究所との協力によるグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」は、受講生の支援等の活動を継続的に実施した。
- ③ 教育理事を中心とする「ジュニア活性化委員会」において、小中高校生、高専生、大学学部1～3年生を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し、学生・生徒の育成を支援するとともに、学部4年生以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進した。
- ④ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを開催した。全国大会での中高生情報学研究コンテストは、2020年度と同様80件以上の発表を集めた。

1.4 会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のため、「広報」と「広聴」を戦略的に推進する広報広聴戦略委員会を新設し、魅力ある学会作りに向けて会員アンケートやヒアリングなどを実施し、新たな施策を打ち出した。

- ① 政策提言委員会と広報委員会を統合した広報広聴戦略委員会を新設し、会員サービスの向上および広報宣伝の充実化を図り、CMOを活用したマーケティング活動を実施し、施策を立案した。
- ② マーケティング活動の推進のため、CMO（チーフ・マーケティング・オフィサ）として外部コンサルを登用し、会員に対するアンケートやヒアリングを実施し、学生会員の正会員への誘導、企業エンジニアの退会防止や入会促進につながるWeb関連施策やサービスの充実化施策を打ち出した。
- ③ スマホなど様々なユーザデバイスからの申込や参加費決済などのアクセシビリティと利便性の向上を目指し、学会Webページの全面見直しを実施した。
- ④ 小中高教員のための新規入会キャンペーン（春・秋）を継続した。

1.5 情報システム・DXの推進

学会情報システムの見直しに加え、事務局業務のBCP/DX化を推進するため、情報システム委員会を情報システム・DX委員会と改名し、ニューノーマル時代に対応したデジタル化を推進した。

- ① 支部Webサイトのシステム統合について、2020年度に先行実施した九州支部での実績をベースに、中国、東海、四国支部のシステム移行を完了した。また、情報規格調査会Webサイトの本部サイトへの統合について検討を開始した。
- ② 学会サービスのDX化の一環として、ナレッジやスキルの習得を証明するデジタル認証であるオープンバッジを採用、CITPの認定証としての発行を開始した。
- ③ 会員の利便性向上を目的とした、役員選挙、業績賞Web投票システムについて、会員システムマイページと連携する改修作業が完了、2022年1月より運用開始した。
- ④ 学会Webサイトや会員システムなど本部情報システムのDX化について、会員・非会員の活動傾向等を分析しマーケティングに活用することを目的としたデータ統合や、会員の利便性向上を目的としたシングルサインオンの検討に着手した。

1.6 会誌・イベント・調査研究・論文活動の継続推進

ニューノーマル時代での学会誌・研究論文の在り方、イベントの開催形式を継続検討した。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに、好評だった過去の特集などのオンライン化を推進した。

- ① note などを活用し学会誌オンラインの充実化を進めるとともに、オウンドメディアを活用した会誌記事の発信なども試行した。
- ② 研究会やシンポジウム、全国大会、FIT、セミナーなど各種イベントのよりよい開催方式(オンライン開催、ハイブリッド開催を含む)を試行した。FIT ではオンライン懇親会を実施、IT フォーラムでは新しいオンラインツールである EventIN、全国大会では「IPSJ VIRTUAL HALL」を試行した。
- ③ 論文誌は、オープンアクセス時代に向けたプレプリントなどの在り方について継続検討した。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会との連携を推進した。

- ① IEEE や ACM 等のグローバルトップの国際学会活動を参考にして、学会のグローバル運営戦略の検討を進めた。また、Joint Award の継続、浸透を図った。IEEE-CS とは、COMPSAC2021 への技術協力、MOU の継続を行った。IEEE-CS 会長、ACM 会長が第 84 回全国大会でオンライン招待講演を行った。
- ② アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) と中長期的な CJK 連携の強化を継続して行い、会長が CCF 年次大会でビデオメッセージ挨拶を行い、CCF 会長、KIISE 会長が第 84 回全国大会でビデオによる招待講演を行った。

2. 会員の異動状況

下記の取り組みを実施し、会員数の増加に努めた。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。ジュニア会員については、ジュニア会員向けの諸活動が功を奏し増加し、学生会員はイベント参加申込のための入会者が増加し、正会員の減少は依然継続しているものの、今年度の個人会員合計は 2020 年度に比べ 406 名の増加となり 2009 年度以来 12 年ぶりに 2 万人を超えるところまで回復することとなった。

- ① ジュニア会員制度を推進し若い世代の入会促進に努めた。
- ② 連続セミナー・IT フォーラム 2021 の開催、デジタルプラクティス改革など実務家・IT エンジニアに向けた活動を推進した。なお、入会費用の無料施策により今年度は、CITP 認定者のうち 20 名(個人 9 名、企業 11 名)の無料入会があった。

2.2 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会(時限)を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進した。
- ② ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知するとともに、会誌「先生、質問です!」コーナー、ジュニア会員の論文掲載料無料化全国大会での第 4 回中高生情報学研究コンテスト(オンライン開催)等々の施策を行い、学生会員育成活動を推進した。
- ③ 2020 年度に続き、春(4月~6月)と秋(10月~12月)の 2 回、ジュニア会員獲得の施策として、ジュニアを指導する初等中等教員の入会を促進するキャンペーンを実施した。その結果、新たな会員層を発掘

(30名)するとともに、初等中等教員の既存正会員の継続(85名)を促した。

- ④ 学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
 ⑤ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として1研究会への無料登録を継続した。

会員種別	会員数		増減数 ①-②	備考：2021年度の異動内訳				
	① 2021 年度末	② 2020 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	44	43	1	0	新入会 正会員から異動	1		
正会員	14,684	15,008	-324	535	学生会員から異動	1,124		557
				824	ジュニアから異動	2	名誉会員に異動	
学生会員	2,782	2,525	257	1,659		619	正会員に異動	32
				73	ジュニアから異動	824	ジュニアに異動	
ジュニア会員	2,654	2,182	472	1,128		583		
				0	正会員から異動	0	正会員に異動	
				0	学生から異動	73	学生会員に異動	
個人会員 計	20,164	19,758	406	4,221		3,226		589
賛助会員 (口数)	255 (590)	265 (609)	-10 (-19)	18 (21)		28 (40)		

*2021年度期末正会員数には終身会員728名を含む。

3. 会議等に関する事項(総会、理事会、各種委員会)

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により総会、理事会をはじめ、各種実施事業に関する各種委員会の殆どをオンラインで開催した。詳細は付録1(p.22~p.33)に掲載する。

4. 実施事業1: 調査研究活動(定款第4条1項1号および2号)

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等

41研究会、5研究グループ(内2研究グループは調査研究運営委員会所属)により活動し、研究発表会(156回 内140回はオンライン開催、内16回はハイブリッド開催*)およびシンポジウム等(20回 内19回はオンライン開催、内1回はハイブリッド開催*)を開催した。また、研究会登録者数は9,125名と微減であった。詳細は付録2(p.34~p.40)に掲載する。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催もしくは現地開催とオンライン開催を併用したハイブリッド開催となった。

※前年度参考：41研究会、5研究グループ、研究発表会154回、シンポジウム19回、研究会登録者数9,212名

(1) コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会(42回 内39回はオンライン開催、内3回はハイブリッド開催)、シンポジウ

ム等（6回 全てオンライン開催）を行った。また、研究会登録者数は2,818名であった。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① ソフトウェア工学(SE)研究会が IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter の共催と多くの協賛団体のもと、「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2021 (SES2021) (2021年9月6日～8日, オンライン)」を開催した。参加者は343名であった。
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、領域共通の積立金を活用して2021年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を21名に授与した。
- ③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において、顕著な功績のあった9名に対し、領域共通の積立金を活用して2021年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

(2) 情報環境領域

16研究会により、研究発表会（62回 内54回はオンライン開催, 内8回はハイブリッド開催）, シンポジウム等（9回 内8回はオンライン開催, 内1回はハイブリッド開催）を行った。また、研究会登録者数は3,129名であった。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、シンポジウム開催支援1件のプロジェクトを採択した。
- ② 10研究会*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に「DICOM02021シンポジウム（2021年6月30日～7月2日, オンライン）」を開催した。例年の DICOM シンポジウムは、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による開催であったが、今回は新型コロナ禍に鑑みオンラインで開催した。参加者は436名であった。

※マルチメディア通信と分散処理 (DPS), グループウェアとネットワークサービス (GN), モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL), コンピュータセキュリティ (CSEC), 高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), インターネットと運用技術 (IOT), コンシューマ・デバイス&システム (CDS), セキュリティ心理学とトラスト (SPT), デジタルコンテンツクリエイション (DCC) 各研究会

- ③ 5研究会*が合同で「インタラクション2022シンポジウム（2022年2月28日～3月2日, オンライン）」を開催した。参加者は540名と盛況であった。ジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI), グループウェアとネットワークサービス (GN), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), デジタルコンテンツクリエイション (DCC), エンタテインメントコンピューティング (EC) 各研究会

- ④ 情報環境領域の研究会分野において、顕著な功績のあった個人・団体に贈呈する情報環境領域功績賞を3名に対し授与した。

(3) メディア知能情報領域

14研究会, 3研究グループにより、研究発表会（52回 内47回はオンライン開催, 内5回はハイブリッド開催）, シンポジウム等（5回 全てオンライン開催）を行った。また、研究会登録者数は3,178名であった。特記事項は次のとおりである。

- ① コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) 研究会が電子情報通信学会パターン認識・メディア理解 (PRMU) 研究会と共催で「第24回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2021) (2021年7月27日～30日, オンライン)」を開催した。電子情報通信学会と交代で幹事学会を務めており、今回は本会が幹事だった。参加者1,428名と盛況であった。
- ② エンタテインメントコンピューティング (EC) 研究会が「エンタテインメントコンピューティング2021シンポジウム（2021年8月30日～9月1日, オンライン）」を開催し、参加者は300名であった。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research, IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award, 若手奨励賞を贈呈した。付録5 (p. 47～p. 50) に掲載する。

(2) 調査研究活動に関する情報共有

調査研究運営委員会・3領域委員会合同委員会において、新型コロナ禍におけるシンポジウム・定例研究会開催形態に関する情報共有の時間を設けた。また、研究会から委員を推薦し、文部科学省での「情報分野の研究開発課題検討会」に参画した。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定

情報処理学会データサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）を2021年4月に公開し、第20回情報科学技術フォーラム（FIT2021）において「データサイエンティスト等先端IT人材育成に関する情報処理学会の取り組み」のイベントを企画、運営するなど普及活動を行った。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続した。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEE審査4件を担当した。JABEEのソウル協定の活動に、委員会として貢献した。

5.3 教員免許更新講習の開催

2014年度から実施している高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を、コロナ禍により実施形態をオンラインとし8月12日から15日の4日間で実施した。【選択必修】メディア・リテラシー、海外の事例、情報と職業、学校ICT活用（GIGAスクール）、アクティブ・ラーニング、【選択】情報教育を巡る動向、情報セキュリティと情報倫理、【選択】データの分析、データベース、プログラミング入門、大学入試と情報科、【選択】Pythonプログラミングとmicro:bitの更新講習を実現した。これらは、高校の情報科教員の知識の更新（アップデート）に役立つものであった。

5.4 認定情報技術者制度

認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については、引き続き個人認証および企業認定の応募者拡大の取り組みを進めている。2021年度の実績においては、新たに345名の認定情報技術者が誕生した。一方で、計6,800名もの認定情報技術者を抱えていた認定企業2社が社内資格制度の変更に伴って企業認定を更新しなかった。これによって、2019年度末には8,227名いたCITPホルダーが今年度末には、2,121名まで落ち込んでいる。2社の影響を除くこの期間中の新規増分は約700名であるが、個人・企業

ともCITPの更新継続が課題である。2020年度からデータサイエンティスト（DS）職種に対する企業認定（=ITSSレベル4以上）を開始したことを受けつつ、今年度は個人認証におけるDS資格認証の実現に向けて、DS戦略推進委員会のもとで、プロフェッショナル（=レベル4以上）の前段階であるITSSレベル3相当の知識・スキル認定制度の検討を進めた。また、資格制度運営においてはiCD（i-competency dictionary）への対応に関する議論も行った。現在、CITPには資格認定証を紙で配布することを基本としているが、今年度から希望者にはデジタルの認定証としてオープンバッジを配布して併用を開始した。また、CITPを増やしていくためには、CITP自身による情報発信が大事であるとの認識のもと、全国大会において、CITPコミュニティーメンバ・企業の人材育成担当者・CITP制度運営関係者を招いて、CITPの価値向上を情報発信強化に向けた議論を行った。

5.5 初等中等教育での情報教育支援

(1) 初等中等教育への支援

初等中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。高専プロコン交流育成協会との連携により、高専プロコン連携シンポジウム2021を開催した。第84回全国大会では、初等中等教員研究発表セッションを開催し、初等中等教員による8件の研究報告がされた。

(2) 高校教員への支援活動

2022年からの新指導要領で必須科目となる「情報I」の教員向け研修教材に基づき、関連団体の協賛・支援を得て、MOOC教材を開発した。今年度、「情報通信ネットワークとデータの活用」分野を対象に、5つのコンテンツを公開した。今後、教員研修での活用が期待される。

5.6 その他

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

コロナ禍の中、教育に関するシンポジウムならびにコンテストを休止することなくオンラインでの企画を行い、すべてを運営した。高校教科「情報」に関するシンポジウムを、テーマ「情報科教育の新時代を創る～デジタルの日を記念して～」として、10月9日にオンラインで開催した。大学の一般情報教育に関するシンポジウム「これからの大学の情報教育2021」として、12月18日にオンラインで共催した。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために第14回情報システム教育コンテスト ISECON2021を第84回全国大会の企画セッションとして開催した。また、若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を、オンライン開催であったが例年どおりに推進した。第84回全国大会では、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストは、2020年度と同様に86件の発表を集め、オンラインにて実施した。なお、今年度より本コンテストの最優秀賞受賞者に対しては文科省文部科学大臣賞を贈呈することとした。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

第20回情報科学技術フォーラム（FIT2021）において、日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会、電子情報通信学会とともに、公開シンポジウム「大学入学共通テスト『情報』が目指すもの」を企画し、運営した。大学入学共通テストへの「情報」の出題が決定したことに基づき、提言（4回）を発信した。大学入試センター情報関係基礎の問題・解答・見解を同センターの許諾のもと「情報関係基礎アーカイブ」として公開した。また、模擬問題の解説をnoteで発信した。第84回全国大会の企画セッションとして「情報入試—共通テストと個別試験」を開催した。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初等中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ペタ語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(4) 表彰, その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈した。
- ② 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を行った。
- ③ 国際会議「World Conference on Computers in Education (WCCE2022)」の日本開催に向けた準備検討が進められた。
- ④ NII グローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」プロジェクトの運営に参画し、受講生の支援や審査等を行った。
- ⑤ 情報教育に関する活動の広報活動を積極的に行った。

6. 実施事業 3 : 学術講習会の開催 (定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号)

※各開催状況の詳細は付録 2 (p. 40~p. 42) に掲載する。

6.1 全国大会/FIT

(1) 第 84 回全国大会

第 84 全国大会を 2022 年 3 月 3~5 日に愛媛大学城北キャンパスにてハイブリッド開催した。イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い、遠隔からの講演、聴講も可能とした。ハイブリッド開催となり、聴講参加費、座長参加費は実開催と同額とした。懇親会は新型コロナウイルス感染症対策として、学外のホテルメルパルク松山にて開催予定であったが、まん延防止等重点措置のため行わなかった。講演件数は、1,556 件 (一般セッション 1,307 件、学生セッション 249 件)、参加者数は 4,140 名 (参加券発行数) であった。※前年度参考: 講演件数 1,164 件、総参加者数 3,486 名

(2) 第 20 回情報科学技術フォーラム (FIT2021)

FIT2021 (第 20 回情報科学技術フォーラム) を、2021 年 8 月 25~27 日にオンライン開催した。当初、東北学院大学 多賀城キャンパスの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対策として 2020 年 12 月にオンライン開催への変更を決定した。一部小規模イベントは現地開催を模索したが、感染が収束しない状況を鑑み全てのイベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施した。オンライン開催に伴い、聴講参加費は FIT2020 同様に実地開催での金額に対して半額とした。講演件数は 500 件、総参加者数は 2,285 名であった。

イベントや一般セッションなど、当初予定していた企画はすべてオンラインで円滑に実施することができた。船井業績賞受賞者 Shree K. Nayar 氏 (T. C. Chang Chaired Professor, Computer Science, Columbia University) による受賞記念講演には、あらかじめ録画したビデオによるご講演に加え、ご本人にリアルタイムでご挨拶いただくことができ、多数の参加者から好評を得た。イベント企画 (計 13 件)、FIT2019 から開催のトップコンファレンスセッション (3 日間で 7 セッション, 41 件) も実施した。今回は企業によるインダストリアルセッション (2 社) と IT 情報系キャリアセッション (7 社) を開催した。また、スポンサー 7 口を獲得した。※前年度参考: 講演件数 383 件、総参加者数 2,036 名

新たな試みとしてオンラインでの情報交換会を開催した。東北学院大学 応援団・チアリーディングチーム演舞ビデオ披露やオンラインのビンゴ大会などのアトラクションも行い、最大 45 名程度の参加があり好評だった。また「FIT2021 限定仙台お土産セット」を FIT 開催前~最終日まで販売した。

(3) 表彰

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録 5 (p. 49, p. 52) に掲載する。

6.2 セミナー／ITフォーラム／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2021

「ニューノーマル時代に向けた情報技術の潮流」を全体テーマとし2020年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインにて開催を行った。今年度より開催回数を全12回に変更し6月から12月にかけて開催し、569名（内賛助会員特典参加・スポンサー特典参加59名）の参加があった。

※前年度参考：全6回、延べ参加者数452名

(2) 短期集中セミナー

年度内に計4回の短期集中セミナーを開催した。いずれもコロナ禍の状況を考慮し、オンライン形式での開催となった。昨今関心が高まっている教育のオンライン化、電子書籍のアクセシビリティの他、マルチメディア符号化、バイオメトリクスおよび情報セキュリティなど幅広い分野での国際標準化に関する講演を実施することができた。

- ・「教育の情報化と技術標準の最新動向」（9月）
参加者：75名
- ・「SC29 JPEG/MPEG標準化最新動向とAI技術の活用、メディア符号化の未来」（11月）
参加者：51名
- ・「EPUB電子書籍のアクセシビリティのJIS化について」（2月）
参加者：93名
- ・「バイオメトリクスの標準化最新動向～認証性能/偽造弁別/セキュリティ評価/IC旅券/AI規制～」
(2月)
参加者：44名

(3) ITフォーラム

IT関連業界において現場で活躍されている産業界の方々を中心に、学界・官公庁関係の方々、次世代を担う若手の技術者・研究者の方々等、多くの方々がともに問題意識を共有し議論、交流を深められる場として、またIT産業の今後を考える機会として「ITフォーラム2022」を2021年度に引き続きオンラインで開催した（参加者：277名）。

(4) プログラミング・シンポジウム

年度内に2回（第63回プログラミング・シンポジウム（参加者63名）、第54回情報科学若手の会（参加者53名））のシンポジウムを開催した。いずれも昨今のコロナ禍の状況を考慮し、オンライン形式での開催となった。

6.3 ITフォーラム

① 2021年度はサービスサイエンスフォーラム、コンタクトセンターフォーラム、CITPフォーラムの3つのITフォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

- ・サービスサイエンス：3分科会がそれぞれ1回/月の研究会、研究会成果を出版した。また、今後に向けて学会の有力な先生方と議論する機会を作っていった。
- ・コンタクトセンター：例年と比べ回数としては若干少なかったものの、オンライン会議にて年間5回のフォーラムを開催した。
- ・CITP：概ね2020年度と同等の活動を維持しているものの、新規コアメンバの獲得が進まず、メンバ不足によって活動が停滞している専門部会(SIG)も存在するが、一方で今年度は新しくCITPマーケティングSIGを立ち上げて積極的な広報活動への取り組みを進めた。

② ITフォーラム2022において、関連団体*との連携イベントを推進した。

※先端IT活用推進コミュニティ(AITC)

6.4 AI プログラミングコンテスト

2012年度より毎年度開催し2020年度をもって終了したSamurAI Codingは、過去に開催した本イベントのアーカイブ作業を完了し、その活動を終了した（実施年度とコンテストゲーム名は以下の通り）。

- ・2012-2013年度：Rokkaku Conquest / Gunbai Script / Tournament
- ・2014年度：Negotiate and Conquer
- ・2015-2016年度：SamurAI 3x3 (three on three)
- ・2017-2018年度：SamurAI Jockey
- ・2019-2020年度：SamurAI Dig Here

6.5 各支部による支部連合大会、講習会等の開催

支部連合大会、講習会、講演会、セミナー等、各支部において活発に活動がなされた。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により各種活動はオンライン開催が主体となっている。詳細は、付録2 (p.42) および付録5 (p.51) に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※発刊状況の詳細は付録3 (p.43) に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第62巻5号から第63巻4号まで計12号（本文2,086ページ（内冊子版691ページ，電子版1,395ページ），広告62ページ，平均発行部数14,455部／号）を編集発行した。
- ② 会誌のハイブリッド刊行に向けて，2020年度からのオンライン版推進を更に加速し，テスト版として62巻8号から63巻4号までepub版（特集本編のみ）を公開した。
- ③ 学会誌「情報処理」noteは，過去記事と新規記事あわせて152記事を公開した。
- ④ 「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。
- ⑤ 62巻9号「研究会推薦博士論文速報」では，本誌に簡略版，noteにその詳細を掲載した。
- ⑥ さまざまなITに関する企画を取材し，マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を継続した。
- ⑦ 会議レポートの掲載数を増やし，会員へ国内外会議の周知，また，積極的な参加を呼びかけた。
- ⑧ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」，著名人による「巻頭コラム」，連載「古機巡礼/二進伝心」，連載「ビブリオ・トーク-私のオススメー」，連載「5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み」，連載「情報の授業をしよう!」，連載「先生，質問です!」，教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し，概ね好評を得た。
- ⑨ 分野を越え，多くの領域と情報技術をつなぐ企画として，特集「触覚と情報処理」（62巻7号）「植物と情報処理」（62巻12号）などを掲載した。
- ⑩ 教育委員会の執筆・編集による情報入試の連載「教科『情報』の入学試験問題って?」をnoteに掲載した。
- ⑪ デジタルプラクティスから独立した，実務家向けの記事を掲載する「デジタルプラクティスコーナー」を年4回掲載した。
- ⑫ Info-WorkPlace委員会連動企画として，noteに連載「<Info-WorkPlace委員会企画>働き方を共有しよ

う！」を掲載した。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告を Web カタログとして学会 Web 上に掲載するサービスを継続した。
- ② 付録として発行している学生向けの「インターン・就職情報誌」（62 巻 7 号，62 巻 12 号，63 巻 4 号）の掲載企業は 35 社であった。
- ③ メールニュースをより魅力的なものとするため，2020 年度に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ④ Kindle/Fujisan での電子版の販売を継続した。電子雑誌配信プラットフォーム「magaport」に入稿することにより eBookJapan, kobo, マガストアでの販売も開始した。
- ⑤ 「情報処理学会 学会誌『情報処理』note」で無料/有料記事を公開，また，Twitter での情報発信を充実させるなどオンラインメディアでの発信を強化した。
- ⑥ IPSJ メールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
- ⑦ 58 巻 4 号特別企画として作成した「情報処理学会 LINE スタンプシール」のダウンロード数は今年度までで累計 13,789 件となった。
- ⑧ 学会の知名度向上をはかるため，技術書の展示会「技術書典 11,12 オンライン」に会誌編集委員会として出展し，会誌特集別刷を作成して販売した。
- ⑨ 本会を象徴する「場」をオンライン上に構築することを目的として，ZOOM などのビデオ会議ツール，cluter や VRChat などのような 3 次元空間性を伴ったプラットフォームで活用できるアセットを創出し，常設展示やオンラインイベントの会場として活用できる「IPSJ VIRTUAL HALL」を企画・制作した。
- ⑩ 全国大会にて IPSJ ONE の小学生版「IPSJ KIDS」，高校情報科を楽しく学ぶための動画活用方法を，ゆかいな先生方に教えていただく「高校情報科，動画を活用しよう！」を現地と「IPSJ VIRTUAL HALL」を利用したオンラインにて開催した。

8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※各発行状況の詳細は付録 3（p. 43～p. 44）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

- ① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）
論文誌（一般論文，特集号論文）の月刊体制を維持し，目標 240 編に対し 242 編（含 JIP preprint 59 編）が掲載された。招待論文を 1 編掲載し，特集号を 14 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が 40 歳以下の会員）し，若手研究者に対して投稿機会を提供するとともに，第一著者 58%の方が本特集号をきっかけに入会をした。第 84 回全国大会でイベント企画「論文必勝法」を企画し，論文執筆やその指導法についての講演や，論文投稿に関するノウハウを参加者に共有し，論文投稿数の増加を図った。
- ② 論文誌編集委員の貢献に報いるため，論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。
- ③ 新編集長による編集委員会がスタートした。幹事会，グループ会議ともにコロナ禍の影響で，オンライン開催となった。Google drive を活用した原稿管理表の共有，Slack による情報共有，google doc によるノウハウの共有など編集委員会運営の効率化を行った。
- ④ 電子図書館対応検討 WG において，情報学広場からの移行の検討を行ったが，費用面等検討を行い，

研究会報告とともにシステム改修を行った上で情報学広場に残ることとなった。

- ⑤ 論文誌査読の効率化に向け、査読なし不採録（ディスクリジェクト）を導入することとし、編集細則の変更を行った。
- ⑥ 特集号編集委員会から要望が多かった、査読結果の一括ダウンロードについて、幹事会母体の若手研究者特集号で一括ダウンロードとエクセルファイルによる査読結果の共有を試行した。査読結果の共有は効率よく行えたが、いくつかの問題はこの方法では対処しきれないことが明らかになり、査読システム（Scholar one manuscript）の改修に向けた検討を開始し、それまでの期間に活用できるよう一括ダウンロードに関するノウハウを特集号編集委員会などに共有することとした。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」

- ① 年間論文掲載数の目標 70 編に対して掲載件数は 75 編（うち招待論文 1 編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。
- ② JIP ではまれに二重投稿と判断される論文の投稿があることから、剽窃チェックツールを試験的に導入することとした。
- ③ Impact factor 取得に向けて、英文ページの整備を行い、英文のなかった論文誌編集規定を英訳するなどページの改修を行った。

(3) トランザクション（10 誌）

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 31 回発行した。トランザクションの掲載論文は目標 130 編に対し計 106 編（含 JIP preprint 16 編）となった。

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞を贈呈した。詳細は付録 5（p. 47）に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズほか

J17 も参考にしながら既企画のメンテナンスを中心に活動を行い、重版を 25 冊行った。文科省からも問われていた「情報セキュリティ（改訂 2 版）」と「情報システムの分析と設計」を刊行した。また本会出版委員会監修の企画出版シリーズとして「クラウドシステム移行・導入—アーキテクチャからハイブリッドクラウドまで」を刊行した。IT テキストシリーズ全ての今年度販売数は 12,662 部。

8.3 歴史資料の保存・公開

- ① 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は、473,517 件（日英合わせ）、転載数 21 件であった。
- ② 第 84 回全国大会（オンライン）で特別セッション「私の詩と真実」で 2 件講演発表を行った。

8.4 デジタルコンテンツ事業の推進

- ① 多くのユーザへのビジビリティ向上を目的に 2014 年 4 月より開始したサイトライセンスサービスについて、2014 年度 36 件（大学のみ）、2015 年度 50 件（大学＋企業）、2016 年度 59 件、2017 年度 62 件、2018 年度 67 件、2019 年度 70 件、2020 年度 78 件、2021 年度 84 件とサービスを拡大してきている。2022 年度は 90 件を目指す。
- ② 電子図書館のプラットフォーム移行に関して、他のプラットフォームとの運用面、費用面、機能面での比較検討した結果および、次年度より CDO を採用し学会システム全体を経営的な視点から検討することから、拙速に移行先を判断すべきではないと判断、当面の間現在の情報学広場残留を決定した。
- ③ 本委員会の傘下に本会の「ビデオコンテンツ作成全般を支援する WG」を組織し、本会 YouTube チャンルの動画リストを精査、また、YouTube での収益化に関する検討を行った。また、電子情報通信学会と本会のコンテンツバンドリングサービスについての検討も進めた。

9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

9.1 情報規格調査活動

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC 1 直属の19のSC（全22SC委員会中）および各AG（Advisory Group）、WG、AHG（Ad Hoc Group）の対応を行った。さらに国際提案準備と、JIS原案作成を行った。前年度から引き続き、文字コード（SC 2）、デジタル記録媒体（SC 23）、メディア符号化（SC 29）などの重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC 1総会（5月、11月）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。今年度も2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全ての国際会議は対面ではなくオンラインでの開催となった。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長2件（全22SC委員会中）、セクレタリアート4件（全22SC委員会中）。その他、コンビーナ（各SC委員会傘下のWG主査）9件（110WG中）、プロジェクトエディタ延べ77名と2020年度同様に貢献した。
- ② 2021年11月に開催されたJTC 1総会で設置されたAG 19（無人航空機）については、JTC 1サブグループ対応小委員会で担当し積極的に対応した。その他のAG（Advisory Group：諮問グループ）についても、優先度を見極めながらJTC 1サブグループ対応小委員会、あるいはディレクティブズ小委員会（ISO/IEC専門業務用指針に係る事項を検討する小委員会）で対応した。
- ③ 国際標準化の日本提案としては、新業務項目（NP）の提案（承認済）5件、国際標準（IS）などの発行されたもの10件などである。
- ④ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中、JTC 1が取り組むテーマがISO、IEC、およびITU-Tと重複する傾向が進んでいるため、JTC 1と連携テーマがあるITU-Tへの国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。また、初の試みとして、2022年2月にIPSJ・TTC共催オンラインセミナー「世界で広がるAI倫理の議論と活用に向けた取り組み」を開催した（参加者：724名）。
- ⑤ 国際会議の日本での開催：2022年11月に東京でJTC 1総会を開催することになり、準備を開始した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 今年度の国際会議も2020年度に引き続き全てオンライン開催となったため、渡航費等の支出は僅かとなった。311回の標準化国際会議への参加者は、延べ2,007人と、例年並みであった。
- ② 国内においても新型コロナウイルス感染拡大防止のため、機械振興会館での委員会等の対面会議開催を最小限に抑え、会合のオンライン化を推進した。また、事務局職員のテレワーク環境強化に努め、事務局機能の維持に努めた。
- ③ 次世代情報システムについては、本会本部の次世代システムの検討と歩調を合わせながら、本部システムとの統合を視野に入れつつ情報規格調査会としてのシステムのあり方を検討した。
- ④ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略、予算策定などの情報を共有しつつ運営を推進した。
- ⑤ 情報規格調査活動への参加者の満足度や要望を把握して今後の運営に生かすべく、参加者全員を対象としたアンケートを実施した。その内容を分析し、次世代情報システムの要件などに反映した。
- ⑥ 2003年以降、情報規格調査会独自の取り組みとして進めてきた学会試行標準について、当初の役割を果たしたことから、活動終息に向けて手続きに着手した。この間、国際規格発行2件を含む多くの成果を生み出した。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 前年度に引き続き、委員会活動を広く紹介するための一般向け広報として、活動報告を公開ホームページに掲載した。
- ② 情報技術標準化フォーラムは、今年度も2020年度同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- ③ SC 36「教育の情報化と技術標準の最新動向」、SC 29「JPEG/MPEG標準化最新動向とAI技術の活用、メディア符号化の未来」、SC 34「EPUB 電子書籍のアクセシビリティについての JIS 規格」、およびSC 37&SC 27「バイオメトリクスの標準化最新動向～ 認証性能/偽造弁別/セキュリティ評価/IC旅券/AI規制～」の4件の短期集中セミナーを実施した。
- ④ 広報活動を強化し、情報規格調査会の存在と活動の認知度を高めるため、広報広聴戦略委員会に参加した。
- ⑤ OS のサポート期限切れによるセキュリティの脆弱性を解消するため、Web サーバを移行した。さらに、2022 年度に実施する学会本部のホームページとの統合に向けて新ホームページの検討を開始した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録5 (p. 52) に掲載する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会 (9月21日～22日 オンライン) に相田 IFIP 日本代表が参加した。
- ② 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌 (3月号) への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ③ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) へ継続的に参画している (IP3は2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された)。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2021年7月12日～16日にオンラインで開催された The 45th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2021) への技術協力をを行った。
- ② 第84回全国大会において IEEE-CS 会長 William D. Gropp 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「Charting a Path for the Computing Profession」
- ③ 姉妹学会 MOU を継続し、会員向けの連携サービスを継続。
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」3名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

- ① ACM と本会との Joint Award として、「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
- ② 第84回全国大会において、Joint Award 表彰式と ACM 会長 Gabriele Kotsis 氏の招待講演をオンラインで行った。演題「Intelligence? Smartness? Emotion? What do we expect from future」

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
 - ・12月のCCFの年次大会において、会長がビデオメッセージ挨拶を行った。
 - ・第84回全国大会において、CCF会長 Mei Hong 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「CCF, Advanced during the Epidemic in 2021」
 - ・第84回全国大会において、KIISE会長 Kyuseok Shim 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「Changing Society and Information Processing - It is all about Big Data!」
- ② 他の海外学会との協力関係の継続

以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

 - ・Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
 - ・Australian Computer Society (ACS)
 - ・SEARCC (South East Asian Regional Computer Confederation)
 - ・Computer Society of India (CSI)
- ③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催 (3 件) ※今年度内に終了報告が完了した国際会議

詳細は付録4 (p. 46) に掲載する。

なお、今年度内に開催された国際会議は以下のとおり (3件)。

- ・The 16th International Workshop on Security (IWSEC2021) (2021年9月, オンライン開催)
- ・The 13th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2021)
(2021年11月, 日本科学未来館/オンライン開催)
- ・The International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region
(HPC Asia 2022) (2022年1月, オンライン開催)

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力 (定款 4 条 1 項 6 号)

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会への参加および事務研究委員会傘下に事務局業務改善検討 WG が設立され、この WG にも参加した。また、電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。特にコロナ対応の学会事業、事務局業務につき連携を図った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」ほか、研究発表会および学術講習会において、関連学協会等と適宜共催を行った。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

第19回コンピューテーショナル・インテリジェンス研究会(公益社団法人計測自動制御学会主催 2021年12月9日(木)～10日(金)開催)ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等121件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

第7回先端メカトロニクス国際会議(一般社団法人日本機械学会主催 2021年7月1日(木)～2日(金)開催)ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等17件を行った。

11.3 内閣府「デジタルの日」への協力

2021年9月に発足された「デジタル庁」、そして社会全体でデジタルを思い出す・感じる定期的な機会として創設された「デジタルの日」に対して本会も賛同し以下の活動を行った。

(1) 祝「デジタル庁」・「デジタルの日」創設 特設サイトの公開

本会会長からの祝辞ならびに「デジタルの日」対応イベント企画(本部企画8件、研究会企画2件、支部企画6件)を特設サイトに掲載した。

(2) 「デジタルの日」対応イベント企画

以下の「デジタルの日」対応イベント企画を開催した。

① 本部企画8件

- ・FIT2021 平井デジタル改革担当大臣からのメッセージ
- ・FIT2021 デジタル庁記念講演
- ・会誌「情報処理」デジタル庁発足；「DX」から「デジ道」へ(平井デジタル改革担当大臣)
- ・日本IT団体連盟×情報処理学会「デジタルの日」共催セミナー
「ニューノーマル時代に向けた産業界や学界の対応・戦略」
- ・第3回情処ウェビナー「大学入学共通テスト「情報」がこの国を変える！」
- ・第10回情報科教員を目指す学生さんに向けてのガイダンス会2021
- ・高校教科「情報」シンポジウム2021秋「情報科教育の新時代を創る～デジタルの日を記念して～」
- ・京都コンピュータ学院×情報処理学会「デジタルの日」共催講演
「日本のコンピュータ発展の歴史をひもとく」

② 研究会企画2件

- ・エンタテインメントコンピューティング2021(EC2021)
- ・ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2021(SES2021)

③ 支部企画6件

- ・東海支部企画：MirAI TokAI ジュニアプログラミングコンテスト
～東海を元気にするAIプログラムを作ろう！～
- ・北陸支部企画：2021年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会
- ・九州支部企画：2021年度(第74回)電気・情報関係学会九州支部連合大会
- ・四国支部企画：eかみしばいコンテスト2021
- ・中国支部企画：「デジタルの日」特別講演会 美しい幾何学図形を素材とした自動作曲法
- ・北海道支部企画：情報処理北海道シンポジウム2021 Info-Hokkaido 2021

12. 法人運営

12.1 政策提言活動の推進

広報広聴戦略委員会を中心として学会各種委員会と連携し、国の政策および方針について学会としての意見を積極的に提言・情報発信することにより、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して、学会の一層の発信力向上を推進した。

12.2 運営体制の充実・改善等

(1) ニューノーマルに向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により社会が急激に変化していく中で、学会のイベント、委員会等各種活動のオンライン化ならびに現地開催、ハイブリッド開催を含めた適切な活動形態の試行、ならびに事務局業務に関しても2020年度より推進してきたコロナ禍におけるBCP対応（テレワーク勤務対応、遠隔会議ツール・ファイル共有システム導入など）を、今年度はDX対応へと進化させ更に電子押印システム導入や経理業務関連のワークフロー見直し、RPAの導入試行などWithコロナ時代の運営改善に努め推進した。

(2) 中長期計画の推進

「60周年宣言」を実現するために①広く新しい情報処理ユーザへの学会活動の訴求、②広く新しい情報処理ユーザへの新しいサービスの提供、③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備の3つを柱とした中長期計画を実行する大型投資を伴う中長期施策の一つとして、会員サービスの向上および広報宣伝の充実のため、「広報」と「広聴」を戦略的に推進する広報広聴戦略委員会の下の広報小委員会および広聴マーケティング小委員会において、CMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）として外部コンサルを登用した。会員に対するアンケートやヒアリングを実施し、学生会員の正会員への誘導、企業エンジニアの退会防止、入会促進につながるWeb関連施策やサービスの充実化施策を打ち出した。

(3) 運営体制の見直し

60周年学会宣言の戦略的推進、ニューノーマル時代に対応した効率的な業務推進を目指し、委員会体制を再構成した。

- ① 学会のビジネスモデルを変革しつつ60周年学会宣言を戦略的に実行するため、総務財務運営委員会、企画政策委員会、新世代企画委員会を統合し、経営企画委員会を新設した。
- ② 60周年学会宣言の鍵となる学会活動を外部に発信する「広報」と外部からの声を聴き、マーケティングにつなげる「広聴」を戦略的に推進するため、政策提言委員会と広報委員会を統合し、広報広聴戦略委員会を新設した。
- ③ 学会情報システムの検討に加え、学会業務のニューノーマル対応ならびにDXを推進するため、情報システム委員会を情報システム・DX委員会と改名した。
- ④ 情報学広場以外のオンラインコンテンツも含めた先鋭化を検討するため、デジタルコンテンツ事業検討委員会に電子図書館対応検討WGを吸収した。また、傘下にビデオコンテンツWGを設置した。
- ⑤ 広報広聴戦略委員会で立案する施策方針を具体的な活動に落とし込むCMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）を外部委託の形で採用した。
- ⑥ 上記委員会体制の再構成に合わせて、事務局内の体制も総務・経理部門、システム部門、会員サービス部門を法人統括として束ねるなどの見直しを進めた。

(4) 広報広聴活動の推進・諸活動のデータ収集

1) 広報小委員会

- ① 学会サイトの健全な運営のために、サイトポリシー、アクセシビリティポリシーならびにソーシャルメディア運用ポリシーを整備し公開した。
- ② 以下3回の情処ウェビナーを企画、開催した。
 - ・第2回 2021年5月28日「誰一人取り残さないために情報技術が果たす役割」視聴者数：712名
 - ・第3回 2021年10月3日「大学入学共通テスト「情報」がこの国を変える！」視聴者数：444名
 - ・第4回 2022年1月22日「AIで人の表情・感情を可視化する
ー表情解析AIの理論紹介と、探究授業における感情認識AIの活用ー」視聴者数：309名
- ③ 本会活動に関わる広報・提言活動として以下5件に対する意見を発信した。
 - ・2021年 7月14日 教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令案
 - ・2021年 8月 4日 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告
 - ・2021年10月 1日 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告(補遺)
 - ・2021年10月25日「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて
 - ・2022年 1月31日 2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度 ～国立大学協会の基本方針～
- ④ 本会の各種表彰に関して受賞者のSNSによる受賞報告をタイムリーに促進できるよう、表彰規程を改訂し公開した。
- ⑤ 本会twitter公式アカウントの管理・運営ならびにWGによる積極的な情報発信を行った。また、本会に関するツイートを適宜リツイートし、本会のSNSでの知名度向上にも貢献した。

2) 広聴マーケティング小委員会

- ① マーケティング活動の推進のため、CMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）として外部コンサルを登用し、マーケティング活動を行なった。
- ② まず、会員のライフサイクルを洗い出し、特にジュニア会員→学生会員→正会員の流れと、産業界からの退会防止、会員獲得に注目した。
- ③ 次に、会員に対するアンケートおよびヒアリングを実施し、2,513人のアンケート回答および、12名のヒアリングを行った。
- ④ アンケート結果を分析したところ、大学・企業の研究者は学会のサービスをフルに活用し、かつ運営にも参加することで満足度が高いが、学生や企業技術者にとっては、情報を得る手段として学会を捉えており、学会のサービス利用は会誌などに偏っていることがわかった。
- ⑤ 上記分析をもとに、ワークショップを2回行い、学生と企業技術者のフェーズごとのニーズを探るカスタマージャーニーマップを作成した。
- ⑥ カスタマージャーニーマップで得られ、目的や優先度を明確にした各種の施策を列挙した。これらは次年度以降実施する体制を作っていく。

(5) 新世代発想の学会運営への取り組み

- ① 第84回全国大会において、これまで好評な企画である IPSJ-ONE（第77回に開始）をオンラインで継続実施した。
- ② 2018年度に開始した会誌記事「先生、質問です!」の連載を引き続き行った。連載を通して、情報系の研究の魅力や情報社会の方向性に関する情報発信を行った。特に、本会元会長である長尾真先生から頂いた御意見と、本会から現会長を含む先生方からの感謝の言葉を掲載した。
- ③ 特に博士学生を対象とした「予算申請書作成メンタリング」の企画を引き続き実施した。学振申請書の書き方に関する講演会、過去の申請書の共有アーカイブの設置、および有志メンターによる申請書チェックの取り組みを行った。
- ④ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績に繋がることをねらい、各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて、若手研究者に招待講演を依頼する際に、講演者に支払う謝金を学

会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」を行った。

- ⑤ 第 84 回全国大会において、イベント企画セッション「新世代企画委員会のこれまでとこれから」を開催し、歴代委員長数名とともに新世代企画委員会がこれまで果たしてきた活動を振り返りつつ、今後の本会への期待を考えるディスカッションを行った。
- ⑥ 新世代企画委員会が今年度で終了することから、本委員会で行っていた業務を本会の他の委員会に引き継いだ。

(6) データサイエンスのカリキュラム・資格制度への取り組み

データサイエンス戦略推進委員会は、DS 標準カリキュラム（専門教育レベル）の策定と社内 DS 資格（ITSS レベル 4 相当）の認定を開始した。なお、本委員会は今年度の時限委員会ということでその活動を終了し、2022 年度以降の本活動は、DS 資格（ITSS4 レベル相当）の個人認証は資格制度運営委員会、DS 教育プログラム（専門教育レベル）の認定はア krediteーション委員会が引き継ぎ対応をしていく。

(7) 倫理綱領の改訂検討

公正で倫理的な学会活動を行うための行動規範として 1996 年に制定された「情報処理学会倫理綱領」について、制定から四半世紀が経ちその後の時代の変化に合わせた見直しが必要な為、改訂に向けた検討を進めた。

(8) ダイバーシティへの取り組み

ダイバーシティ宣言を学会 Web に公開した。また、NPO 法人「女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」へ賛助会員加入した。

(9) ワークプレイスへの取り組み

Info-WorkPlace 委員会を中心に、働き方改革に対する取り組みを実施した。特に、全国大会等との連動企画として参加できない人に発表内容をお届けする「お届け Info」を 2020 年度に引き続き実施し、ビデオデリバリー 6 件、note 記事 3 件、速報 4 件を実施した。今回は新しく発表内容をお届けするデリバリーも公募する試みを新たに行った。また、会誌連載記事「働き方を共有しよう！」を 3 編掲載した。

(10) 財務基盤の強化

- ① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続した。
- ② 健全な学会運営・財務管理体制を目指すべく、学会事業別サマリーの見直しを進めた。

(11) アドバイザリーボードによる運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードミーティングを 2021 年 10 月に開催し、地域に根差したグローバルな視点を持って社会に貢献する「グローバル公共哲学」の観点からの提言を受け、各種実施事業の企画および運営の改善に役立てる。

(12) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

- ① 支部 Web サイトのシステム統合について、2020 年度から移行を進めていた九州支部の運用開始を皮切りに、中国、東海、四国支部の移行を完了した。次年度、移行希望の最後の支部である北陸支部の移行をもって支部サイト統合を完了する。
- ② 学会サービスの DX 化の一環として、ナレッジやスキルの習得を証明するデジタル認証であるオープンバッジを採用、CITP の認定証としての発行を開始した。
- ③ 会員の利便性向上を目的とした役員選挙 Web 投票システムの改修について、会員システムマイページと連携する改修作業が完了、2021 年 1 月より運用開始した。
- ④ 学会 Web サイトや会員システムなど本部情報システムの DX 化について、会員・非会員の活動傾向等を分析しマーケティングに活用することを目的としたデータ統合や、会員の利便性向上を目的としたシングルサインオンの検討に着手した。次年度、今後のシステム更改実施に向けた方針検討を行う。

(12) 著作権関連

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また、プログラムシン・ポジウムの過去論文の電子保存のための著作権許諾手続きを公開調査した。更に電子図書館コンテンツのWikipediaへの掲載についても実現の見通しがたった。イベント等の講演、発表ビデオの著作権内規について改訂を検討した。

12.3 その他表彰等

(1) 顕彰, 名誉会員・フェローの選定など

功績賞, 学会活動貢献賞の贈呈のほか, フェロー認定を行った。詳細は付録5 (p. 47, p. 50~p. 51) に掲載する。また, 本会では外部団体が主催する学術賞について, 本学会内に選考WG等などを設け候補者を募集し, 情報処理分野のみならず推薦を行った。主な賞は次の通り (日本学術振興会賞, 日本学術振興会育志賞, 電気科学技術奨励賞など)。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために, 監査法人のほか弁護士, 税理士, 社労士, 司法書士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は27名 (本部20名, 規格7名, 前年末は27名) である。

以上

付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

■ 総 会

[2021年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：133名

※総会成立定数：67名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2021年度定時総会(オンライン開催) 2021年6月8日 議長：江村克己（会長） 出席：114名（内、委任状26名）	<決議事項> 第1号議案：2020年度に係る財務諸表等の件 第2号議案：新名誉会員の推薦の件 第3号議案：一部役員の任期満了による新役員の選任の件 <報告事項> 第1号報告：2021年度に係る計画等の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件 <その他付録> 付録：創立60周年記念事業報告書	承認 承認 承認 報告 報告 報告

■ 理事会

[第653回までの構成（理事27名）]

会 長：江村克己

副 会 長：中川八穂子、萩谷昌己

先任理事：伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、清水佳奈、下條真司、高橋尚子、田中淳裕、長 健太、西垣正勝、
西山博泰、本田新九郎

後任理事：井上創造、上原忠弘、鎌田真由美、岸野泰恵、高橋克己、辰己丈夫、中小路久美代、中山泰一、西田知博、樋口 毅、
松尾 豊、森嶋厚行

監 事：渡辺 尚、河内谷清久仁

[第654回以降の構成（理事28名）]

会 長：徳田英幸

副 会 長：萩谷昌己、上田修功

先任理事：井上創造、上原忠弘、鎌田真由美、岸野泰恵、高橋克己、辰己丈夫、中小路久美代、中山泰一、西田知博、樋口 毅、
松尾 豊、森嶋厚行

後任理事：荒川 豊、小野寺民也、河合和哉、清原良三、佐古和恵、高岡詠子、高倉弘喜、高橋尚子、田上敦士、長谷川亘、
前川卓也、湊 真一、吉濱佐知子

監 事：河内谷清久仁、中野美由紀

※理事会成立定数：14名（第653回まで）、15名（第654回以降）

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項 ※ [] 内：担当理事	会議の結果
決議の省略・報告の省略 2021年4月22日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2021年3月の新規入会申請[総務] 2. 2021年度終身会員の承認について[総務] 3. 支部運営委員会構成について[総務] 4. 定時総会で贈呈する感謝状について[総務] 5. 委員長の任期延長について(キョリテイ委員会)[総務] 6. 領域委員会財務委員の交代について[調査研究] 7. 研究会主査、幹事の交代について[調査研究] 8. ショッピング等の終了報告(終了8件)[調査研究] 9. JIP(Journal of Information Processing)編集長の推薦について[論文誌] 10. 国内会議への協賛・後援・協力願いについて(2021年4月申請分:12件)[事業] 11. 国際会議への協賛・後援願いについて(2021年4月申請分:3件)[事業] 12. スーパーコンピュータコンテストへの共催申請および寄付の扱い・運用要項(案)について[教育] 13. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2021年3月期開催会議[総務] 2. 2020年度功績賞受賞者:推薦文等等(案)(報告)[総務] 3. 2021年度支部報告会日程および担当役員について[総務] 4. 第18回日本学術振興会賞の推薦について[総務] 5. 第11回情報システム委員会議事録[総務] 6. 第65・66回新世代企画委員会議事録[総務] 7. 第17回Info-WorkPlace委員会議事録[総務] 8. 第266回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 9. 第480回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 10. 第77回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 11. 第83回全国大会の終了報告[事業] 12. 第84回ブローディングコンテスト委員会議事録[事業] 13. 第386回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

	<p>16. 2021年度全国大会運営委員会・第84回全国大会プログラム委員会第1回合同委員会議事録〔事業〕</p> <p>17. 第77回FIT運営委員会議事録(臨時)〔事業〕</p> <p>18. JSTグローバルサイエンスハブ(GSC)「情報科学の達人」報告〔教育〕</p> <p>19. 第389回規格役員会議事録〔標準化〕</p>	<p>確認</p> <p>確認</p> <p>確認</p> <p>確認</p>
<p>決議の省略・報告の省略</p> <p>2021年8月26日(監事確認日)</p> <p>議決可能理事数:全議案とも28名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年7月の新規入会申請〔総務〕 2. 中部産業連盟との連携について〔会誌〕 3. シホジウム等の開催願い〔調査研究〕 4. 2021年度第1回CITP個人認証合格者承認依頼〔技術応用〕 5. 国内会議への協賛・後援願いについて〔事業〕 6. 国際会議への協賛・後援願いについて〔事業〕 <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年7月期開催会議〔総務〕 2. 2022年度役員・代表会員選挙日程〔総務〕 3. 第70回新世代企画委員会議事録〔総務〕 4. 第19回Info-WorkPlace委員会議事録〔総務〕 5. 第1回DS戦略推進委員会議事録〔総務〕 6. 「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」に関する意見提出についてご報告〔総務〕 7. 第270回会誌編集委員会議事録, 会誌特集・巻頭コラム一覧, 理事からのメッセージ〔会誌〕 8. 第75回情報処理学会教科書編集委員会議事録〔会誌〕 9. 第81回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕 	<p>承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略</p> <p>2021年9月27日(監事確認日)</p> <p>議決可能理事数:全議案とも28名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年8月の新規入会申請〔総務〕 2. 2022年度代表会員理事会推薦候補者(1次案)について〔総務〕 3. 表彰規程の改訂について〔総務・会誌〕 4. シホジウム等の開催願い〔調査研究〕 5. 2021年度技術士向け個人認証合格者承認依頼〔技術応用〕 6. 国内会議への協賛・後援願いについて〔事業〕 7. 令和3年度国際標準化委託事業契約締結承認伺い〔標準化〕 <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年8月期開催会議〔総務〕 2. 2021年度功績賞ならびに顕功賞選定手続きについて〔総務〕 3. 「ITスペシャリスト(ITSSレベル4相当)資格を含む認定情報技術者(CITP)企業認定制度開始, 1社を認定」ご報告〔総務〕 4. 令和3年度「デジタル社会推薦賞」への推薦について(報告)〔総務〕 5. 第117回歴史特別委員会議事録〔会誌〕 6. 第484回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋〔論文誌〕 7. 第77回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕 8. 第81回個人認証審査委員会議事録〔技術応用〕 9. 第76回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕 10. 2021年度全国大会運営委員会・第84回全国大会プログラム委員会第2回合同委員会議事録〔事業〕 11. 第1・2回FIT2022船井業績賞選定委員会議事録〔事業〕 12. 第390回規格役員会議事録〔標準化〕 	<p>承認</p>
<p>第656回理事会(オンライン開催)</p> <p>2021年9月29日</p> <p>議長:徳田英幸(会長)</p> <p>議決可能理事数:全議案とも28名</p> <p>出席理事数:27名</p>	<p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度シニア会員申請者の承認について〔総務〕 2. ASP-DAC2023国際会議開催申請書〔調査研究〕 3. 次期会誌編集長について〔会誌〕 <p><審議事項>(該当なし)</p> <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理事の職務執行状況(6月~8月)〔総務〕 2. 2021年度会員状況(2021年8月現在)〔総務〕 3. 第3回経営企画委員会議事録〔総務〕 4. 第2回広報広聴戦略委員会議事録〔総務〕 5. 第22回デジタルコンテンツ検討委員会議事録〔総務〕 6. 第271回会誌編集委員会議事録, モニタ評価等〔会誌〕 7. 会誌への広告提供のお願い 付:会誌広告状況(2021年9月現在)〔会誌〕 8. 第84回全国大会スポンサー募集へのご支援について〔事業〕 <p>参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略</p> <p>2021年11月1日(監事確認日)</p> <p>議決可能理事数:全議案とも28名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年9月の新規入会申請〔総務〕 2. シホジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究〕 3. 国内会議への協賛・後援願いについて〔事業〕 	<p>承認</p> <p>承認</p> <p>承認</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 2. 2021年度会員状況(2021年12月現在)[総務] 3. 第7回経営企画委員会(兼 倫理委員会)議事録[総務] 4. 第4回広報広聴戦略委員会議事録[総務] 5. 第274・275回会誌編集委員会議事録, 会誌特集一覧ほか[会誌] 6. バーチャル情報処理学会会館「IPSJバーチャルホール(仮称)」計画[会誌] 7. 第77回教科書編集委員会議事録[会誌] 8. 連続セミナー2021開催終了報告[技術応用] 9. 資格制度運営委員会報告[技術応用] 10. プログラミング・シホジウム活動報告[技術応用] <p>参. 理事会アクションアイテム</p>	<p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2022年2月26日(監事確認日) 議決可能理事数: 全議案とも28名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 2022年1月の新規入会申請[総務] 2. シホジウム等の開催願い/終了報告[調査研究] 3. 小中高教員の論文誌「教育とコンピュータ」掲載料減免について[論文誌] 4. 2021年度第2回CITP個人認証合格者承認依頼[技術応用] 5. 2021年度認定情報技術者企業認定承認依頼[技術応用] 6. 国内会議への協賛・後援願いについて[事業] 7. 国際会議への協賛・後援願いについて[事業] <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 2022年1月期開催会議[総務] 2. 「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度-国立大学協会の基本方針-」に関する意見提出についてご報告[総務] 3. 第276回会誌編集委員会議事録, 会誌特集・巻頭コラム一覧, 理事からのメッセージ[会誌] 4. 第489回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 5. 論文誌運営委員会議事録[論文誌] 6. 2021年度第2回論文賞選定委員会(ジャーナル)議事録[論文誌] 7. 第86回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 8. 第81・82回企業認定審査委員会議事録[技術応用] 9. 第2回FIT2022プログラム委員会議事録[事業] 10. 第395回規格役員会議事録[標準化] 	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2022年3月28日(監事確認日) 議決可能理事数: 全議案とも28名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 2022年2月の新規入会申請[総務] 2. 2021年度業績賞について[総務] 3. 2022年度定時総会における感謝状贈呈[総務] 4. 2021年度情報処理学会フェロ候補者の選定について[総務] 5. 「フェロに関する規程」および「フェロ選定手続」の改訂について[総務] 6. 「マイロフト情報学研究賞」「情報処理技術研究開発賞」表彰規程改訂について[総務] 7. デジタルコンテンツ事業検討委員会規程改訂について[総務] 8. 学会事務局職員の世代交代プロジェクト推進に伴う賃金規則ならびに職員の昇給昇格等の手続きに関する内規の改訂について[総務] 9. 2022年度会誌編集委員会名簿[会誌] 10. IBM Community Japanにおける企業実践論文の採録について[会誌] 11. 研究会主査・幹事の交代について[調査研究] 12. シホジウム等の開催願い/終了報告[調査研究] 13. 2021年度論文賞について[論文誌] 14. 国内会議への協賛・後援願いについて[事業] 15. 2021年度優秀教育賞・優秀教材賞[教育] 16. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 2022年2月期開催会議[総務] 2. 第74-76回新世代企画委員会議事録[総務] 3. 第490回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 4. トライアングル編集委員長・副委員長の交代について[論文誌/調査研究] 5. 第87回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 6. 第82・83回資格制度運営委員会議事録[技術応用] 7. 第396回規格役員会議事録[標準化] 	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>第659回理事会(オンライン開催) 2022年3月30日 議長: 徳田英幸(会長) 議決可能理事数: 全議案とも28名 出席理事数: 26名</p>	<p><承認事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度功績賞の選定[総務] 2. 情報処理学会倫理綱領改訂案について[総務] 3. プライバシーポリシーの改訂について[総務] 4. 委員長等の任期延長・交代(Info-Workplace・プロジェクト)[各担当] 5. 学会事業別ガマ(事業区分)の見直しについて[財務] 6. IPSJ VIRTUAL HALL継続使用のための予算要望書[会誌] 7. APSEC2022国際会議開催申請書[調査研究] 8. 2021年度中高生情報学研究コンテストからの若手奨励賞受賞候補者について[調査研究] 9. 2021年度「ソフトウェア・ハート」について[技術応用] 	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>

	<p><審議事項></p> <p>1. 事業計画・予算ほか</p> <p>(1) 2022年度事業計画(2次)、2021年度事業報告(3月現在)[各理事]</p> <p>(2) 2022年度予算(2次)・2021年度決算見込(3月現在)[財務]</p> <p><報告事項></p> <p>1. 2022年度役員・代表会員選挙結果[総務]</p> <p>2. 定時総会までのスケジュール[総務]</p> <p>3. 法令・定款による理事の職務執行状況報告(12月~2月)[総務]</p> <p>4. 第8・9回経営企画委員会(兼 倫理委員会)議事録[総務]</p> <p>5. 第5回広報広聴戦略委員会議事録 付:Twitterチーム出入[総務]</p> <p>6. 第20回Info-Work委員会議事録[総務]</p> <p>7. 2021年度会誌広告状況[会誌]</p> <p>8. 連続セミナー2022開催趣意書[技術応用]</p> <p>9. ITフォーラム2022終了報告[技術応用]</p> <p>10. SamurAICoding終了報告[事業]</p> <p>11. 全国大会イベント企画「情報入試~共通テストと個別試験」のメディア掲載について[教育]</p> <p>参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>承認</p> <p>承認</p> <p>確認</p>
--	--	---

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 経営企画委員会（兼 倫理委員会）（旧 総務財務運営委員会、企画政策委員会）

◎/△萩谷昌己、○/△上田修功、○/△樋口 毅、○/△上原忠弘、△吉濱佐知子、△田上敦士、△高橋克巳、△小野寺民也、△松尾 豊、△佐古和恵

[4月26日、5月31日、6月23日、7月15日、9月17日、10月13日、11月17日、12月8日、'22年1月14日、2月25日、3月16日]

学会運営全般／総会関連事項／損益状況／倫理関係／中長期戦略関係／アドバイザーボード関係／その他運営上の諸課題など

1.1.1 本部・規格連絡会

◎上田修功、○/△河合和哉、○上原忠弘、△田上敦士、樋口 毅、吉濱佐知子、○関 喜一、伊藤雅樹、河内清人、深澤良彰、田丸健三郎、福田昭一、山本英朗

['21年12月24日] 本部・規格調査会間の連絡

1.2 広報広聴戦略委員会（旧 広報委員会、政策提言委員会）

◎/△萩谷昌己、○/△上田修功、○/△井上創造、○/△高橋尚子、△樋口 毅、△上原忠弘、△高橋克巳、△小野寺民也、辰己丈夫

[6月23日、9月10日、11月8日、'22年1月17日、3月18日]

広報活動／マーケティング活動／営業活動／提言活動／対外的情報発信など

1.2.1 広報小委員会

◎辰己丈夫、五十嵐悠紀、稲見昌彦、井上創造、江谷典子、小野寺民也、鎌田真由美、中山泰一、西田拓央、畑田裕二、美馬亮太、*中川 八穂子、樺 惇志

[5月27日、8月27日、'22年2月24日、3月18日]

広報活動／SNS広報活動強化／ウェビナー企画／提言活動／対外的情報発信など

1.2.2 広聴マーケティング小委員会

◎井上創造、辰己丈夫、樋口 毅、樺 惇志、*（株）パワー・インタラクティブ、*太田智美、*山本優歌

[5月18日、8月27日、10月25日、WS11月22日、WS11月30日、'22年1月13日、1月26日、2月2日、2月21日、3月9日、3月22日]

マーケティング調査・活動／会員増施策に向けた施策検討（リアル施策・Web施策）など

1.3 情報システム・DX委員会（情報システム委員会より名称変更）

◎上原 忠弘、○田上 敦士、砂原秀樹、樋口 毅、吉濱 佐知子

[4月9日、7月2日、12月7日] 情報システムに関する諸対応

1.3.1 セキュリティ委員会

◎砂原秀樹、△上原忠弘、大谷和子、佐々木良一、△ 田上 敦士、寺田真敏、鳥居 悟、△樋口 毅、丸山 宏、△吉濱 佐知子

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.4 著作権委員会

◎△井上創造、●△高橋尚子、天野真家、大谷和子、鎌田真由美、岸野泰恵、清原良三、高倉弘喜、西田知博、樋口 毅

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

1.5 新世代企画委員会

◎辰己丈夫、○前川 卓也、五十嵐悠紀、△井上創造、△上原 忠弘、△小野寺 民也、桂井麻里衣、△ 鎌田 真由美、樺 惇志、△高橋克巳、△中小路 久美代、△樋口 毅、村尾和哉

[4月22日、5月27日、6月24日、7月30日、8月30日、9月27日、11月5日、12月22日、'22年1月24日、2月28日、3月14日]

新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

1.6 Info-WorkPlace委員会

◎坊農真弓、△倉本 到、荒川 豊、伊東 香、井上創造、大場みち子、小山清美、鎌田真由美、木塚あゆみ、楠 房子、清水佳奈、高岡詠子、高橋尚子、中小路久美代、中野美由紀、中山泰一、西山博泰、湊 真一、渡辺知恵美

[4月13日、6月14日、8月2日、'22年2月24日] 働き方に関する取り組みを実施する

1.7 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△萩谷昌己、○岸野泰恵、○森嶋厚行、安達 淳、△ 井上創造、△上原忠弘、△鎌田真由美、△中小路久美代、水野慎士

[9月2日、'22年1月31日] デジタルコンテンツ事業の推進

1.7.1 ビデオコンテンツWG

◎/△辰己丈夫、稲垣知宏、稲見昌彦、阪田史郎、△萩谷昌己、△森嶋厚行、△中小路久美代

[10月7日、'22年3月22日] デジタルコンテンツ事業の推進

1.8 ジュニア会員活性化委員会（時限）

◎中山泰一、○高岡詠子、松尾豊、佐古和恵、辰己丈夫、前川卓也、井上創造、高橋尚子、中小路久美代、湊真一、鎌田真由美、荒川豊、伊藤一成、杉田由美子、吉田葵、北村操代、兼宗進、和田勉、中野由章

[6月29日、12月9日、教員インタビュー'22年3月8日、3月9日、3月10日、3月12日、3月15日、3月16日、3月26日]
ジュニア会員向け活動の活性化

1.9 データサイエンティスト戦略委員会（時限）

◎萩谷昌己、荒川 豊、掛下哲郎、加藤 浩、鎌田真由美、高岡詠子、中川八穂子、中山泰一、西 直樹

[8月16日、11月9日]
データサイエンティスト戦略委員会で提言された今後の計画について、具体推進策を検討

1.10 支部長会議

◎/△徳田英幸、△萩谷昌己、△上田修功、△樋口 毅、△上原忠弘、△吉濱佐知子、△田上敦士

各支部長：今井英幸（北海道）、篠原 歩（東北）、松田信之（東海）、蛭川 繁（北陸）、荒牧英治（関西）、山岸秀一（中国）、安藤一秋（四国）、吉村 賢（九州）

[9月29日、12月23日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.11 アドバイザリーボード

◎永井良三、有川節夫、稲田修一、鶴飼 佑、宇治則孝、小原 格、喜多羅慈夫、辻 篤子、鳥居高之、藤原 洋

[10月20日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△西田知博、○/△森嶋厚行、○/△清原良三、倉本 到、齊藤典明、長原 一、廣津登志夫

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2021年6月17日	1. 2021年度委員構成確認 2. 2022年度調査研究活動への学会補助額について 3. 2022年度共通費の賦課について 4. 2022年度シンポジウム事務諸費について 5. 国際会議／シンポジウム終了報告の提出について 6. 研究グループの新設について	確認 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認 確認
2021年10月7日 (調研・3領域合同)	1. 研究会グループの継続について 2. 2022年度研究会登録費算定方法 3. 研究会の継続について 4. 新世代企画委員会業務の担当移行について	承認 承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 確認
2022年3月23日	1. 情報保障への補助について 2. 事業報告／事業計画 3. 2021年度活動状況／2022年度計画 4. 第35回IFIP委員会報告 5. 論文誌運営委員会報告 6. 研究会活動貢献賞について	承認 確認 確認 確認 確認 確認

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△森嶋厚行、○廣津登志夫、天笠俊之、井上弘士、今井 浩、岩下武史、定兼邦彦、品川高廣、関嶋政和、田中清史、中野圭介、中村祐一、鷲崎弘宣

2021年6月24日	領域共通-1. 2021年度委員構成確認 領域共通-2. 2021年度山下記念研究賞 領域共通-3. 2022年度調査研究活動への学会補助額について 領域共通-4. 2022年度共通費の賦課について 領域共通-5. 2022年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-6. 2020年度調査研究活動状況および決算報告 領域共通-7. 国際会議／シンポジウム終了報告の提出について 領域共通-8. 研究グループの新設について	確認 選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認 確認 確認 確認・承認
2021年10月7日 (調研・3領域合同)	調査研究運営委員会に同じ。	
2022年3月2日	領域共通-1. 2022年度領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 事業報告／事業計画 領域共通-3. 2021年度活動状況／2022年度計画 領域共通-4. 第35回IFIP委員会報告 領域共通-5. 論文誌運営委員会報告 領域共通-6. 研究会活動貢献賞について	確認・承認 確認 確認 確認 確認 確認

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△清原良三、○斉藤典明、秋元良仁、阿倍博信、石川翔吾、井上智雄、笠井裕之、金岡 晃、北口善明、重野 寛、志築文太郎、須賀祐治、田上敦士、中澤 仁、難波英嗣、畑山満則、峰野博史、山口弘純

[6月28日、10月7日(調研・3領域合同)、『22年3月17日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△西田知博、○長原一、大倉和博、緒方広明、兼宗 進、北岡教英、末代誠仁、倉田博之、小林正朋、関根 聡、竹川佳成、土橋宜典、橋本 剛、原田要之助、藤吉弘亘、水口 充

[7月1日、10月7日(調研・3領域合同)、『22年3月15日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎稲垣知宏、○角田博保、○斎藤俊則、△中山泰一、△高岡詠子、石川 洋、稲葉利江子、上松恵理子、寛 捷彦、掛下哲郎、加藤 浩、兼宗 進、喜多 一、久野 靖、酒森 潔、佐藤真一、佐渡一広、*白井詩沙香、高田真吾、高橋尚子、辰己丈夫、寺元貴幸、長尾和彦、中谷多哉子、中野由章、*萩谷昌己、松澤芳昭、美馬のゆり、湯瀬裕昭、*鷺崎弘宜、和田 勉

[5月18日、7月20日、11月18日、『22年1月26日]

JABEE対応/情報学分野の参照基準/次期学習指導要領改訂/免許更新講習/傘下の小委員会報告ほか

4. 学術講習活動

4.1 事業運営委員会

◎△中小路 久美代、●△湊 真一、清原良三

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2 全国大会運営委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎萩谷昌己、●△中小路久美代、△湊 真一、森嶋厚行、小林真也、都築伸二

[4月21日、6月30日、8月23日、11月4日ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

4.3 FIT運営委員会 ※実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎萩谷昌己、●柏野邦夫、○藤井俊彰、上田修功、△中小路久美代、△湊 真一、西田知博、清原良三、佐藤真一、黄瀬浩一、河村 圭、小松佑人、船富卓哉、小松佑人、山本琢磨、渡辺昌洋、三浦貴大、長 健太

[7月5日、10月25日、3月30日ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎横山大作、大島 聡、新屋良磨、三廻部 大、八木原勇太、渡辺勇士

[5月14日、8月24日、10月18日、12月20日、『22年1月20日] 夏のプロシン/若手の会/冬のプロシンの開催推進

4.5 技術応用運営委員会

◎中川八穂子、○上田修功、○/△鎌田真由美、△荒川 豊、吉濱佐知子、田上敦士、佐古知恵、吉野松樹、旭 寛治、西 直樹、高橋克巳、浅井光太郎

[7月8日、8月5日、12月21日、『22年3月22日] ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

4.6 ITフォーラム推進委員会

◎/△鎌田真由美、○/△荒川 豊、諏訪良武、河合 洋、浜本 拓、河口信夫

[7月8日、8月5日、10月21日、12月21日、『22年3月22日] ほか電子メールベース] ITフォーラムの運営・開催

4.7 セミナー推進委員会

◎/△鎌田真由美、○/△荒川 豊、西山博泰、田島 玲、荒木拓也、北村操代、那須川哲哉、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、平山敏弘、福島俊一、稲葉利江子、杉田由美子、青木秀一、吉田 葵

[4月26日、5月18日、6月25日、7月30日、9月30日、11月2日、12月24日、『22年1月24日、2月15日、3月15日]

連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

4.8 ITプロフェッショナル委員会（高度IT資格関連WGの活動により休眠）

◎旭 寛治、△鎌田真由美、△樋口 毅、寛 捷彦、掛下哲郎、西 直樹、林 雅弘、深澤良彰、吉野松樹

[電子メールベース] 情報処理技術者のプロフェッションの確立と人材育成

4.9 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎西 直樹、○吉野松樹、△鎌田真由美、△荒川 豊、旭 寛治、掛下哲郎、寛 捷彦、玉井哲雄、林 雅弘、深澤良彰

[4月20日、5月20日、6月22日、7月19日、9月7日、10月4日、11月8日、12月6日、『22年1月17日、2月21日、3月17日]

認定情報技術者制度の検討

5. 会誌／出版活動

5.1 会誌編集委員会

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田真城子、△井上創造、△高橋尚子、江渡浩一郎、大石康智、太田智美、折田明子、川上 玲、楠 房子、酒井政裕、清水佳奈、中島一彰、西川記史、橋本誠志、福地健太郎、堀井 洋、水野加寿代、山本ゆうか、湯村 翼、伊藤将志、白井詩沙香、袖美樹子、大島浩太、高木拓也、金子 格、細野 繁

[4月5日、5月7日、6月2日、7月16日、8月6日、9月3日、10月1日、11月12日、12月17日、'22年1月12日、2月3日、3月25日]

全回共通：会誌の編集刊行

5.2 出版委員会

△井上創造、△高橋尚子、金子 格、嶋田義皓、阪田史郎

[電子メールベース] 実務書の出版企画に関する検討

5.2.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△井上創造、△高橋尚子、上原忠弘、駒谷昇一、辰己丈夫、田名部元成、中島 毅、沼尾雅之、石井一夫、斎藤典明

[4月6日、7月14日、10月12日、12月23日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

5.2.2 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎笈田 弘、○旭 寛治、△井上創造、△高橋尚子、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[電子メールベース]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の調査ほか

6. 論文誌活動

6.1 論文誌運営委員会

◎/△岸野泰恵、△清原良三、△高倉弘喜、△西田知博、△森嶋厚行

[電子メールベース、オンライン：'22年2月8日] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎浅井信吉、○/△高倉弘喜、○阿倍博信、○北原鉄朗、○山田太造、○和佐州洋、伊原彰紀、大野正樹、落合純一、柏崎礼生、里田浩三、高木正則、手塚 伸、三浦康之

[4月6日、5月11日、6月7日、7月7日、9月9日、10月8日、11月2日、12月3日、'22年1月11日、2月4日、3月9日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.3 JIP編集委員会（幹事会）

◎下條真司、○/△岸野泰恵、ほか「7.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ、
*Adam KOZYNIAK、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KAMDEM
(海外編集委員) Raymond WAI-MAN PANG (香港)

[4月6日、5月11日、6月7日、7月7日、9月9日、10月8日、11月2日、12月3日、'22年1月11日、2月4日、3月9日]

全回共通：JIPの編集刊行

6.4 トランザクション運営委員会

◎/△岸野泰恵、下條真司、天笠俊之、梶田将司、清原良三、倉田博之、高橋篤司、中野圭介、難波英嗣、廣津登志夫、宮崎 純、棟朝雅晴、森本正志、吉野松樹

[11月17日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△河合和哉、○関 喜一、△田上敦士、山本英朗、田丸健三郎、伊藤雅樹、福田昭一、河内清人、深澤良彰、*柳澤智也

[4月6日、5月18日、6月15日、7月13日、9月14日、10月12日、11月16日、12月7日、'22年1月11日、2月15日、3月15日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

☆相田 仁、◎/△森嶋厚行、○/△西田知博、○/△清原 良三、廣川 直、五十嵐淳、斎藤俊則、村山優子、張 勇兵、内木哲也、小向太郎、金川信康、越前 功、栗原 聡、北村喜文、星野准一、掛下哲郎

[11月18日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2022meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム (DBS)	天笠俊之 (42)	350
ソフトウェア工学 (SE)	鷺崎弘宜 (42)	416
システム・アーキテクチャ (ARC)	井上弘士 (30)	242
システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)	品川高廣 (32)	227
システムとLSIの設計技術 (SLDM)	中村祐一 (27)	207
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	岩下武史 (36)	418
プログラミング (PRO)	中野圭介 (25)	251
アルゴリズム (AL)	定兼邦彦 (23)	169
数理モデル化と問題解決 (MPS)	関嶋政和 (18)	217
組込みシステム (EMB)	田中清史 (24)	182
量子ソフトウェア (QS)	今井 浩 (19)	139
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	田上敦士 (38)	263
ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	志築文太郎 (31)	384
情報システムと社会環境 (IS)	畑山満則 (19)	164
情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	難波英嗣 (8)	96
オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)	笠井裕之 (10)	43
グループウェアとネットワークサービス (GN)	井上智雄 (34)	194
ドキュメントコミュニケーション (DC)	秋元良仁 (9)	52
モバイルコンピューティングと新社会システム (MBL)	山口弘純 (40)	193
コンピュータセキュリティ (CSEC)	須賀祐治 (47)	566
高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)	重野 寛 (26)	127
ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)	中澤 仁 (37)	203
インターネットと運用技術 (IOT)	北口善明 (48)	386
セキュリティ心理学とトラスト (SPT)	金岡 晃 (15)	112
コンシューマ・デバイス&システム (CDS)	峰野博史 (35)	177
デジタルコンテンツクリエイション (DCC)	阿倍博信 (22)	96
高齢社会デザイン (ASD)	石川翔吾 (25)	73
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理 (NL)	関根 聡 (32)	380
知能システム (ICS)	大倉和博 (3)	144
コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	藤吉弘亘 (48)	462
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学 (CG)	土橋宜典 (31)	187
コンピュータと教育 (CE)	兼宗 進 (49)	513
人文科学とコンピュータ (CH)	耒代誠仁 (29)	234
音楽情報科学 (MUS)	竹川佳成 (20)	274
音声言語情報処理 (SLP)	北岡教英 (25)	177
電子化知的財産・社会基盤 (EIP)	原田要之助 (15)	98
ゲーム情報学 (GI)	橋本 剛 (24)	194
エンタテインメントコンピューティング (EC)	水口 充 (22)	148
バイオ情報学 (BIO)	倉田博之 (13)	101
教育学習支援情報システム (GLE)	緒方広明 (21)	195
アクセシビリティ (AAC)	小林正朋 (20)	71
*ネットワーク生態学 (NE)	鳥海不二夫 (--)	---
*会員の力を社会につなげる (SSR)	寛 捷彦 (--)	---
*情報処理に関する法的問題 (LIP)	高岡詠子 (--)	---
[調査研究運営委員会]		
*ビッグデータ解析のビジネス実務利活用 (PBD)	石井一夫 (--)	---
*オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ (RDM)	山地一禎 (--)	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

*コロナウィルス感染症の影響により実情に応じてオンラインまたはハイブリッド開催

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第173回	2021年9月16日～17日	オンライン開催	13	33	電子情報通信学会
第174回	2021年12月27日	NII/オンライン開催	9	25	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第208回	2021年7月8日～9日	オンライン開催	21	98	電子情報通信学会
第209回	2021年11月25日～26日	愛媛大学/オンライン開催	14	59	
第210回	2022年3月11日～12日	オンライン開催	35	115	

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第237回	2021年7月20日～21日	オンライン開催	21	91	電子情報通信学会
第238回	2021年10月11日～12日	オンライン開催	12	61	電子情報通信学会
第239回	2022年1月24日～25日	オンライン開催	29	96	電子情報通信学会
第240回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	65	50	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第152回	2021年5月27日	オンライン開催	8	58	
第153回	2021年7月20日	オンライン開催	9	50	
第154回	2022年3月14日～15日	オンライン開催	11	66	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第195回	2021年10月15日	オンライン開催	11	27	電子情報通信学会
第196回	2021年12月1日～2日	オンライン開催	40	30	電子情報通信学会
第197回	2022年1月24日～25日	オンライン開催	29	85	電子情報通信学会
第198回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	65	20	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第179回	2021年5月14日	オンライン開催	9	112	
第180回	2021年7月20日～21日	オンライン開催	29	152	
第181回	2021年9月27日	オンライン開催	8	82	
第182回	2021年12月6日～7日	オンライン開催	17	98	
第183回	2022年3月17日～18日	オンライン開催	24	123	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第134回	2021年6月10日～11日	オンライン開催	9	75	
第135回	2021年7月20日～21日	オンライン開催	10	94	
第136回	2021年11月1日～2日	オンライン開催	11	82	
第137回	2022年1月12日	オンライン開催	5	45	
第138回	2022年3月17日～18日	オンライン開催	7	79	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第183回	2021年5月7日～8日	オンライン開催	17	44	電子情報通信学会
第184回	2021年8月25日～26日	オンライン開催	8	12	電子情報通信学会
第185回	2021年11月18日～19日	オンライン開催	17	47	電子情報通信学会
第186回	2022年1月27日～28日	オンライン開催	7	24	併催：人工知能学会
第187回	2022年3月14日	オンライン開催	8	29	

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第133回	2021年6月28日～29日	オンライン開催	30	59	電子情報通信学会
第134回	2021年7月27日	オンライン開催	14	13	
第135回	2021年10月18日	オンライン開催	8	23	
第136回	2021年12月13日	オンライン開催	20	43	
第137回	2022年3月3日～4日	オンライン開催	24	52	

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第57回	2021年6月28日	オンライン開催	5	14	
第58回	2021年11月18日	ハシフイコ横浜/オンライン開催	8	28	
第59回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	65	36	電子情報通信学会

1.1.11 量子ソフトウェア研究発表会

第3回	2021年7月1日～2日	オンライン開催	16	100	
第4回	2021年10月14日～15日	オンライン開催	15	97	
第5回	2022年3月24日～25日	オンライン開催	34	133	

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第187回	2021年5月27日～28日	オンライン開催	33	55	電子情報通信学会
第188回	2021年9月9日～10日	オンライン開催	25	67	
第189回	2021年12月20日～21日	高知県立県民文化ホール/オンライン開催	15	43	
第190回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	51	148	

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第193回	2021年6月1日～2日	オンライン開催	25	47	電子情報通信学会/日本バーチャリアリティ学会/ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第194回	2021年8月23日～24日	オンライン開催	21	65	
第195回	2021年11月30日～12月1日	夢舞台淡路国際会議場/オンライン開催	51	116	
第196回	2022年1月11日～12日	石垣島/オンライン開催	36	84	
第197回	2022年3月14日～16日	オンライン開催	58	188	

1.2.3 情報システムと社会環境研究発表会

第156回	2021年6月5日	オンライン開催	11	37	
第157回	2021年9月6日	オンライン開催	6	24	
第158回	2021年12月4日	青山学院大学/オンライン開催	6	40	
第159回	2022年3月7日	オンライン開催	11	39	

1.2.4 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第143回	2021年7月30日	オンライン開催	5	15	
第144回	2021年9月16日～17日	オンライン開催	13	25	電子情報通信学会
第145回	2022年2月24日	オンライン開催	2	6	
第146回	2022年3月25日	東洋大学/オンライン開催	4	11	

1.2.5 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第113回	2021年6月24日	オンライン開催	12	4	電子情報通信学会
第114回	2021年8月25日～26日	オンライン開催	14	3	電子情報通信学会/電気学会/映像情報メディア学会
第115回	2021年11月25日	オンライン開催	15	71	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第116回	2022年2月25日	オンライン開催	15	23	

1.2.6 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第114回	2021年5月16日～17日	オンライン開催	15	38	電子情報通信学会
第115回	2022年1月20日～21日	オンライン開催	56	149	
第116回	2022年3月14日～15日	オンライン開催	25	62	

1.2.7 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第121回	2021年7月15日	オンライン開催	7	21	電子情報通信学会
第122回	2021年10月29日	オンライン開催	2	6	
第123回	2022年1月21日	オンライン開催	3	10	
第124回	2022年3月25日	東洋大学/オンライン開催	4	11	

1.2.8 モバイルコンピューティングと新社会研究発表会

第99回	2021年5月27日～28日	オンライン開催	33	55	電子情報通信学会
第100回	2021年9月2日～3日	オンライン開催	25	98	
第101回	2021年12月6日～8日	オンライン開催	36	88	
第102回	2022年3月7日～8日	オンライン開催	33	128	電子情報通信学会

1.2.9 コンピュータセキュリティ研究発表会

第93回	2021年5月13日～14日	オンライン開催	27	167	電子情報通信学会
第94回	2021年7月19日～20日	オンライン開催	46	103	電子情報通信学会
第95回	2021年11月8日～9日	オンライン開催	29	108	
第96回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	51	88	

1.2.10 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第85回	2021年5月27日～28日	オンライン開催	33	55	電子情報通信学会
第86回	2021年9月7日	オンライン開催	8	53	電子情報通信学会/電気学会
第87回	2021年12月6日～8日	オンライン開催	36	88	
第88回	2022年3月8日～9日	オンライン開催	11	37	

1.2.11 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第70回	2021年6月3日	オンライン開催	12	42	
第71回	2021年9月2日～3日	オンライン開催	25	98	
第72回	2021年11月30日～12月1日	淡路夢舞台国際会議場/オンライン	51	116	
第73回	2022年3月7日～8日	オンライン開催	33	128	電子情報通信学会

1.2.12 インターネットと運用技術研究発表会

第53回	2021年5月13日～14日	オンライン開催	27	167	電子情報通信学会
第54回	2021年7月9日	オンライン開催	11	70	
第55回	2021年9月6日	オンライン開催	9	96	
第56回	2022年3月7日～8日	オンライン開催	55	113	電子情報通信学会

1.2.13 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第42回	2021年5月10日～11日	オンライン開催	15	38	電子情報通信学会
第43回	2021年7月19日～20日	オンライン開催	46	103	電子情報通信学会
第44回	2021年9月6日	オンライン開催	9	96	
第45回	2021年11月8日～9日	オンライン開催	29	108	
第46回	2022年3月7日～8日	オンライン開催	38	40	電子情報通信学会

1.2.14 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第31回	2021年5月20日～21日	オンライン開催	7	32	
第32回	2021年9月2日～3日	オンライン開催	25	98	
第33回	2022年1月20日～21日	オンライン開催	56	149	

1.2.15 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第28回	2021年6月3日	オンライン開催	2	21	
第29回	2021年11月5日～6日	オンライン開催	29	78	
第30回	2022年1月20日～21日	オンライン開催	56	149	

1.2.16 高齢社会デザイン研究発表会

第21回	2021年9月2日～3日	オンライン開催	25	98	
第22回	2022年1月26日	オンライン開催	2	12	
第23回	2022年3月23日	加賀市イノベーションセンター/オンライン開催	6	28	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第248回	2021年5月20日～21日	オンライン開催	46	138	
第249回	2021年7月27日～28日	オンライン開催	14	82	
第250回	2021年9月28日	オンライン開催	8	31	
第251回	2021年12月1日～3日	オンライン開催	30	58	

1.3.2 知能システム研究発表会

第203回	2021年7月2日	オンライン開催	9	10	電子情報通信学会
第204回	2021年9月15日～16日	オンライン開催	17	36	日本ソフトウェア科学会/人工知能学会
第205回	2022年2月21日	金沢勤労者プラザ/オンライン開催	14	66	日本ソフトウェア科学会/人工知能学会
第206回	2022年3月10日	ルスツリゾートホテル/オンライン開催	16	116	

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第226回	2021年5月20日～21日	オンライン開催	46	138	電子情報通信学会
第227回	2021年11月5日～6日	オンライン開催	29	88	
第228回	2022年1月27日～28日	オンライン開催	30	46	電子情報通信学会/バーチャリアリティ学会
第229回	2022年3月10日～11日	オンライン開催	52	187	電子情報通信学会

1.3.4 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第182回	2021年6月25日	オンライン開催	4	24	
第183回	2021年8月25日	オンライン開催	4	13	
第184回	2021年11月5日～6日	オンライン開催	29	85	
第185回	2022年3月11日～12日	オンライン開催	14	42	

1.3.5 コンピュータと教育研究発表会

第160回	2021年6月5日～6日	オンライン開催	13	107	
第161回	2021年10月23日～24日	オンライン開催	11	90	
第162回	2021年12月3日～5日	オンライン開催	29	87	
第163回	2022年2月5日～6日	オンライン開催	18	91	
第164回	2022年3月12日～13日	千葉工業大学/オンライン開催	33	120	

1.3.6 人文科学とコンピュータ研究発表会

第126回	2021年5月22日	オンライン開催	9	60	
第127回	2021年8月28日	オンライン開催	11	56	
第128回	2022年2月19日	オンライン開催	14	62	

1.3.7 音楽情報科学研究発表会

第131回	2021年6月18日～19日	オンライン開催	65	174	
第132回	2021年9月16日～17日	オンライン開催	25	92	
第133回	2022年1月25日	オンライン開催	7	41	

1.3.8 音声言語情報処理研究発表会

第137回	2021年6月18日～19日	オンライン開催	65	148	
第138回	2021年10月19日	オンライン開催	18	13	電子情報通信学会
第139回	2021年12月1日～3日	オンライン開催	30	47	
第140回	2022年3月1日～2日	沖縄県立博物館・美術館/オンライン開催	41	148	電子情報通信学会
第141回	2022年3月23日	オンライン開催	4	35	電子情報通信学会

1.3.9 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第92回	2021年6月7日～8日	オンライン開催	14	50	電子情報通信学会
第93回	2021年9月9日～10日	オンライン開催	25	33	
第94回	2021年11月8日～9日	オンライン開催	29	31	
第95回	2022年2月18日	オンライン開催	23	57	

1.3.10 ゲーム情報学研究発表会

第46回	2021年6月19日～20日	オンライン開催	18	104	
第47回	2022年3月18日～19日	オンライン開催	19	68	

1.3.11 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第60回	2021年6月1日～2日	オンライン開催	25	30	電子情報通信学会/日本バーチャルリアリティ学会/ ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第61回	2021年10月28日～29日	オンライン開催	13	12	
第62回	2021年12月18日～19日	オンライン開催	3	10	
第63回	2022年3月18日～19日	オンライン開催	14	40	

1.3.12 バイオ情報学研究発表会

第66回	2021年6月28日～29日	オンライン開催	30	68	電子情報通信学会
第67回	2021年9月30日	オンライン開催	9	18	
第68回	2021年11月30日	オンライン開催	5	11	
第69回	2022年3月10日～12日	金沢大学/オンライン開催	20	37	

1.3.13 教育学習支援情報システム研究発表会

第34回	2021年5月28日	オンライン開催	5	45	
第35回	2021年12月3日～5日	オンライン開催	29	36	
第36回	2022年3月9日～10日	オンライン開催	18	67	

1.3.14 アクセシビリティ研究発表会

第16回	2021年7月16日～17日	オンライン開催	12	35	
第17回	2021年12月3日～4日	オンライン開催	9	34	
第18回	2022年3月8日～9日	オンライン開催	27	81	電子情報通信学会

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2021)シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2021年6月30日～7月2日	オンライン開催	234	436
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programming (xSIG2021) (ARC, OS, HPC, PRO)	2021年7月19日	オンライン開催	13	184
第24回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2021)	2021年7月27日～30日	オンライン開催	300	1428
情報教育シンポジウム (SSS2021) (GE, CLE)	2021年8月28日～29日	オンライン開催	43	147
エンタテインメントコンピューティング2021 (EC)	2021年8月30日～9月1日	オンライン開催	80	300
DAシンポジウム2021 (SLDM)	2021年9月1日～3日	オンライン開催	46	132
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (SES2021) (SE)	2021年9月6日～8日	オンライン開催	73	343
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2021年10月25日～27日	霧島温泉/オンライン開催	48	89
コンピュータセキュリティシンポジウム2021 (GSS2021) (CSEC, SPT)	2021年10月26日～29日	オンライン開催	190	746
ゲームプログラミングワークショップ (GPW2021) (GI)	2021年11月13日～14日	オンライン開催	35	125
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2021 (GN)	2021年11月19日	オンライン開催	10	57
学生スマートフォンアプリコンテスト	2021年11月23日	オンライン開催	11	68
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2021) (IOT)	2021年11月25日～26日	オンライン開催	24	106
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2021) (EMB)	2021年11月29日～30日	オンライン開催	45	82
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2021) (OS)	2021年12月2日～3日	オンライン開催	35	119
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2021) (CH)	2021年12月11日～12日	オンライン開催	44	140
災害コミュニケーションシンポジウム (IS, IOT, SPT)	2021年12月24日	オンライン開催	13	28
ウィンターワークショップ2022	2022年1月18日, 21日	オンライン開催	23	25
インタラクシオン2022 (HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2022年2月28日～3月2日	オンライン開催	188	540
ITS研究フォーラム (ITS)	2022年3月8日	オンライン開催	5	154

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2021秋-ジョーシン2021秋 -	2021年10月9日	オンライン開催	6	348
----------------------------------	------------	---------	---	-----

3. 事業活動

3.1 全国大会 愛媛大学城北キャンパス (ハイブリッド開催)

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第84回全国大会	2022年3月3日～5日	愛媛大学城北キャンパス (ハイブリッド開催)	1,556	2	4,140

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム) *コロナウイルス感染症の影響により現地開催中止 (オンライン開催)

FIT2021 第20回情報科学技術フォーラム	2021年8月25日～27日	オンライン開催	500	1	2,285
-------------------------	----------------	---------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会 (情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

3.3 連続セミナー2021：テーマ「ニューノーマル時代に向けた情報技術の潮流」

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
情報技術のポストコロナ社会への貢献(1)	2021年6月2日	オンライン開催	3	39
情報技術のポストコロナ社会への貢献(2)	2021年6月9日	オンライン開催	4	37
IT分野の研究開発動向を俯瞰する(1)	2021年7月1日	オンライン開催	4	48
IT分野の研究開発動向を俯瞰する(2)	2021年7月16日	オンライン開催	4	46
AI, 創造性, SF, その先に(1)	2021年9月6日	オンライン開催	3	53
AI, 創造性, SF, その先に(2)	2021年9月14日	オンライン開催	3	46
AI×ロボティクス(1)深層学習によるロボットの知能化	2021年10月5日	オンライン開催	4	53
AI×ロボティクス(2) AIとロボットの共進化	2021年10月14日	オンライン開催	3	44
AIトレンド：大規模モデルと生成モデル	2021年10月27日	オンライン開催	5	55
デジタル社会におけるトラストサービス(1)	2021年11月11日	オンライン開催	3	47
デジタル社会におけるトラストサービス(2)	2021年11月11日	オンライン開催	3	43
量子インターネットと量子サイバースペース	2021年12月7日	オンライン開催	3	58

※協賛：照明学会、情報通信技術委員会、インターネット協会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、情報サービス産業協会、電気学会

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
教育の情報化と技術標準の最新動向	2021年9月10日	オンライン開催	5	75	※1,2

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 協賛：ICT CONNECT 21、映像情報メディア学会、日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)、日本技術士会、照明学会、電子情報通信学会、電気学会

SC29 JPEG/MPEG標準化最新動向とAI技術の活用、メディア符号化の未来	2021年11月30日	オンライン開催	13	51	※1,2
--	-------------	---------	----	----	------

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 協賛：照明学会、日本技術士会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、ビジネス機械・情報システム産業協会、電気学会、IEEE Japan Council

ISO/IEC 23761：2021、EPUB電子書籍のアクセシビリティのJISについて	2022年2月4日	オンライン開催	6	93	※1,2
--	-----------	---------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 協賛：マルチメディアデジタライズ教科書製作ネットワーク、日本DAISYコンソーシアム、照明学会、日本技術士会、電子情報技術産業協会、映像情報メディア学会、ビジネス機械・情報システム産業協会、日本自動認識システム協会、電気学会、電子情報通信学会

世界で広がるAI倫理の議論と活用に向けた取り組み	2022年2月9日	オンライン開催	5	724	※1
--------------------------	-----------	---------	---	-----	----

※1) 共催：情報処理学会、情報通信技術委員会

バイオメトリクスの標準化最新動向 ～認証性能・偽造弁別・セキュリティ評価・IC旅券・AI規制～	2022年2月14日	オンライン開催	5	44	※1,2
--	------------	---------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 協賛：日本自動認識システム協会、映像情報メディア学会、日本技術士会、電子情報通信学会、IEEE Japan Council

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
第54回情報科学若手の会	2021年9月26日	オンライン開催	4	59
第63回プログラミング・シンポジウム	2022年1月7日～8日	オンライン開催	14	63

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（4件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
コンタクトセンター	河合 洋
CITP	浜本 拓
勉強会	河口信夫

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2022	2022年2月4日	オンライン		277	※1.2

※1) スポンサー：5口

※2) ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC））を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2021（10月9日、オンライン開催） 演題数33件、参加者数160名

5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月26日-27日、オンライン開催） 演題数174件
- ・支部研究会 7回（12月3日、12月10日、12月18日、'22年1月22日、2月19日、2月21日、3月10日）*オンライン開催
- ・支部講演会 1回（11月8日）*オンライン開催

5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月7日-8日、オンライン開催） 演題数357件、参加者数 695名
- ・講演会 6回（5月19日、9月7日、9月8日、9月28日、11月30日、'22年1月17日）
- ・研究会 8回（協賛等）
- ・学生研究発表助成 3件

5.4 北陸支部

- ・電気・情報系学会北陸支部連合大会（9月4日、オンライン開催） 演題数208件、参加者数 990名
- ・支部セミナー 全2回（協力）

5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月20日、オンライン開催）発表100件 参加者245名
- ・支部研究会：
 - 組込みとセキュリティ研究会（9月20日）
 - ヒューマンコミュニケーション研究会（9月20日）
 - 行動変容と社会システム研究会（9月20日）
 - プログラミング・情報教育研究会（9月20日）
- ・支部セミナー 2回（7月17日、11月6日）
- ・講演会 1回（12月16日）*オンライン開催 参加者119名

5.6 中国支部

- ・電気・情報関係学会中国支部連合大会（10月24日、オンライン開催） 演題数205件、参加者数426名
- ・講演会 9回（5月19日、10月9日、9月1日、10月8日、11月26日、12月20日、'22年2月3日、2月5日、3月2日）
- ・講習会 3回（11月7日、11月15日、11月8日-26日）（協力）

5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月25日、オンライン開催） 論文数216名
- ・共催事業 6回（6月16日-17日、9月25日、10月2日-12月4日、10月15日、'22年1月8日、2月19日・3月12日）
- ・講演会 1回（'22年1月11日）*オンライン開催

5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月24-25日、オンライン開催） 聴講者数507名
- ・火の国情報シンポジウム（'22年3月1-2日、オンライン開催）
- ・講演会等 2回（11月9日-11日、12月18日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数 ※冊子+オン ライン 刊行	本文頁数 ※冊子+オン ライン 刊行	広告頁数
2021年4月15日	62	5	より自由でより没入感の高いイマーシブメディア／オープンサイエンスを支える研究データ基盤／感性情報学 最前線	29	224	6
2021年5月15日	62	6	デジタルアーキテクチャデザイン	22	88	6
2021年6月15日	62	7	触覚と情報処理	20	109	4
2021年7月15日	62	8	最新のデジタル・フォレンジック事情／快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術	44	247	6
2021年8月15日	62	9	人の動きを捉え社会を動かす人口流動統計	53	118	4
2021年9月15日	62	10	身近になった対話システム	21	84	4
2021年10月15日	62	11	観光情報学—スマートツーリズムに向けた研究動向—DXのプラクティス～ニューノーマル時代を生き延びる～	33	551	6
2021年11月15日	62	12	植物と情報処理	22	92	4
2021年12月15日	63	1	自動運転元年	19	116	6
2022年1月15日	63	2	スマートファクトリーは工場の何を変えるのか？／ビッグデータのデータサイエンス～ニューノーマル時代のビッグデータ～	29	244	6
2022年2月15日	63	3	知能コンピューティング—AIとハードウェアの出会い—	16	96	6
2022年3月15日	63	4	社会インフラシステムにおけるサイバーセキュリティ	26	117	4

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2021年4月15日	62	4	ソフトウェア工学	24	1	191
2021年5月15日	62	5	情報システム論文	18	1	178
2021年6月15日	62	6	---	3	1	32
2021年7月15日	62	7	---	2	0	33
2021年8月15日	62	8	---	4	0	41
2021年9月15日	62	9	Society 5.0を実現するコンピュータセキュリティ技術	21	1	173
2021年10月15日	62	10	ユビキタスコンピューティングシステム(X)	19	0	133
2021年11月15日	62	11	エンタテインメントコンピューティング	8	0	87
2021年12月15日	62	12	デジタル社会の情報セキュリティとトラスト	26	3	278
2022年1月15日	63	1	社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス／ニューノーマル時代の高度交通システムとパーベイシブシステム	28	3	256
2022年2月15日	63	2	インタラクションの理解および基盤・応用技術／ネットワークサービスと分散処理／人文科学とコンピュータ／組込みシステム工学	49	2	467
2022年3月15日	63	3	若手研究者／新しい生活様式を見据えたインターネットと運用技術	27	1	203

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」 (年刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2021年4月15日	29	—	トランザクション連携論文：0	8	0	85
2021年5月15日	29	—	トランザクション連携論文：1	4	0	54
2021年6月15日	29	—	トランザクション連携論文：3	3	0	44
2021年7月15日	29	—	トランザクション連携論文：1	1	0	12
2021年8月15日	29	—	トランザクション連携論文：1	1	0	14
2021年9月15日	29	—	トランザクション連携論文：0	8	1	92
2021年10月15日	29	—	トランザクション連携論文：3	11	0	121
2021年11月15日	29	—	トランザクション連携論文：2	3	0	29
2021年12月15日	29	—	トランザクション連携論文：2	8	0	93
2022年1月15日	30	—	トランザクション連携論文：0	7	1	83
2022年2月15日	30	—	トランザクション連携論文：3	9	1	105
2022年3月15日	30	—	トランザクション連携論文：0	9	0	104

4. 「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」 (不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2021年4月13日	14	2	プログラミング	3	32
2021年6月15日	14	3	プログラミング	1	7
2021年9月30日	14	4	プログラミング	2	7
2021年11月25日	14	5	プログラミング	5	52
2022年1月5日	15	1	プログラミング	3	17
2021年8月10日	14	3	数理モデル化と応用	11	120
2022年1月31日	15	1	数理モデル化と応用	3	30
2022年3月16日	15	2	数理モデル化と応用	2	20
2021年4月13日	14	2	データベース	2	19
2021年7月13日	14	3	データベース	4	41
2021年10月14日	14	4	データベース	8	85
2022年1月11日	15	1	データベース	1	11
2021年8月20日	14	2	コンピューティングシステム	1	12
2021年12月16日	14	3	コンピューティングシステム	1	13
2021年5月18日	11	2	コンシューマ・デバイス&システム	2	0
2021年9月30日	11	3	コンシューマ・デバイス&システム	4	31
2022年1月31日	12	1	コンシューマ・デバイス&システム	1	12
2021年8月20日	9	2	デジタルコンテンツ	2	21
2022年2月28日	10	1	デジタルコンテンツ	3	38
2021年6月15日	7	2	教育とコンピュータ	2	18
2021年10月14日	7	3	教育とコンピュータ	2	23
2022年2月17日	8	1	教育とコンピュータ	9	107
2021年4月15日	2	2	デジタルプラクティス	11	113
2021年7月15日	2	3	デジタルプラクティス	6	67
2021年10月15日	2	4	デジタルプラクティス	6	60
2022年1月15日	3	1	デジタルプラクティス	4	33
2021年5月14日	14	-	Bioinformatics	1	8
2021年11月26日	14	-	Bioinformatics	1	6
2022年1月14日	15	-	Bioinformatics	1	8
2022年3月15日	15	-	Bioinformatics	1	8
2021年8月5日	14	-	System LSI Design Methodology	3	16

5. その他出版（重版）

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2021年4月10日	IT textシリーズ 基礎Web技術（改訂2版）（2版4刷）	500	188
2021年4月10日	IT Textシリーズ（一般教育） 情報とコンピュータ（1版6刷）	100	166
2021年4月20日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論（1版14刷）	60	210
2021年4月20日	IT textシリーズ 情報通信ネットワーク（1版3刷）	200	274
2021年4月20日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング（1版6刷）	130	270
2021年6月10日	IT textシリーズ 離散数学（1版7刷）	400	240
2021年9月10日	IT textシリーズ オペレーティングシステム（改訂2版）（2版5刷）	1,200	260
2021年9月10日	IT textシリーズ Java基本プログラミング（1版8刷）	300	234
2021年9月20日	IT textシリーズ 情報リテラシー（1版15刷）	150	248
2021年9月10日	量子コンピューティング—基本アルゴリズムから量子機械学習まで—（1版3刷）	500	304
2021年9月10日	IT textシリーズ 人工知能（改訂2版）（2版5刷）	300	244
2021年9月30日	IT textシリーズ Java基本プログラミング（1版9刷）	400	234
2021年10月10日	IT textシリーズ データベース（1版19刷）	500	196
2021年10月10日	IT textシリーズ メディア学概論（1版5刷）	130	172
2022年1月20日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン（1版17刷）	500	212
2022年2月10日	IT textシリーズ データベースの基礎（1版2刷）	400	273
2022年2月10日	IT textシリーズ 情報と職業（改訂2版）（2版7刷）	600	232
2022年2月10日	IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション（改訂2版）（2版7刷）	800	260
2022年2月10日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ（1版5刷）	900	206
2022年2月10日	IT textシリーズ アルゴリズム論（1版19刷）	400	230
2022年2月10日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ（改訂2版）（2版2刷）	600	232
2022年2月10日	IT textシリーズ ソフトウェア開発（改訂2版）（2版8刷）	800	224
2022年2月10日	IT Textシリーズ（一般教育） 情報システム基礎（1版14刷）	300	218
2022年2月10日	IT Textシリーズ（一般教育） 一般情報教育（1版2刷）	1,100	218
2022年3月10日	IT Textシリーズ（一般教育） 情報とネットワーク社会（1版8刷）	600	192

6. その他出版（新刊）

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2022年2月21日	IT textシリーズ 情報システムの分析と設計	1,200	272
2022年2月24日	IT textシリーズ 情報セキュリティ（改訂2版）	1,200	288
2022年3月26日	クラウドシステム移行・導入—アーキテクチャからハイブリッドクラウドまで	1,500	248

付4. 国際会議一覧

※以下は、2021年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 12th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2019)	2019年11月4日-6日	Soaltee Hotel (Nepal)	62名	17名	・ IEEE-CS
The 15th International Workshop on Security (IWSEC2020)	2020年9月2日-4日	オンライン開催	77名	16名	-
26th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC2021)	2021年1月18日-21日	オンライン開催	241名	38名	・ IEEE-CAS ・ IEEE-CEDA ・ ACM-SIGDA

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（2名） [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会（2022年6月）表彰中止により] [理事会（2022年1月）]

- ・岡本栄司（元筑波大） ・村山優子（津田塾大）

2. 功績賞・顕功賞 [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会（2022年6月）表彰中止により] [功績賞選定委員会（2022年3月）]

(1) 功績賞（4名）

- ・江村克己（NEC） ・清木 康（慶大） ・松岡 聡（理化研） ・渡辺 尚（阪大）

(2) 顕功賞（1名）

- ・故 中島 浩（京大）

3. 新フェロー（18名） [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会（2022年6月）表彰中止により] [フェロー選定委員会（2022年2月）]

- ・相田 仁（東大） 「分散コンピューティング分野における先駆的研究」
・一色正男（神奈川工科大） 「住宅設備機器におけるIoT化基盤整備と普及に対する貢献」
・岩村 誠（NTT） 「先駆的なサイバー攻撃対策技術の開発と産学連携を通じたセキュリティ分野の活性化への貢献」
・大内一成（東芝） 「状況認識技術とそのヒューマンインタフェース応用に関する研究開発および学会運営への貢献」
・奥富正敏（東工大） 「コンピュータビジョンに関する幅広い先駆的研究ならびに教育・学会活動に対する貢献」
・河野恭之（関西学院大） 「体験記録に基づく記憶拡張支援のためのインタラクション技術と実世界センシング技術の開拓」
・酒井哲也（早大） 「情報アクセスシステムの評価手法に関する研究に対する貢献」
・佐藤真一（NII） 「マルチメディア情報処理に関する先駆的研究」
・田上敦士（KDDI総研） 「インターネットを革新する先駆的研究と学会活動」
・高村誠之（NTT） 「映像符号化技術の研究開発とその国際標準化および普及活動」
・寺田雅之（NTTドコモ） 「プライバシー保護技術を活用した大規模統計データの実用化と社会課題の解決」
・鳥澤健太郎（NICT） 「Web, SNSを対象とする大規模自然言語処理システムの開発と実用化」
・中川八穂子（日立） 「ハイパフォーマンスコンピュータの研究開発と学会運営への貢献」
・中川路哲男（農研機構） 「情報ネットワークシステムに関する研究開発および実用化と技術の普及」
・長田典子（関西学院大） 「感性評価技術の研究および産学連携による実用化」
・灘本明代（甲南大） 「コンテンツ自動生成・利活用に関する研究に貢献」
・西 和彦（Nアンドパートナーズ） 「パソコン技術の先駆的開発・事業化と情報処理技術の普及・発展への貢献」
・松尾 豊（東大） 「深層学習に関する人材育成および技術の普及に対する貢献」

4. 論文賞（4件12名） [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会（2022年6月）表彰中止により] [論文賞選定委員会（2022年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

- ・気圧センサを用いたステップ認識手法
梶 克彦、磯村奎介、高井飛翔（愛知工業大）
・ウェアラブルコンピューティングにおける周波数操作による聴力自在化技術の提案
渡邊拓貴（北大）、寺田 努（神戸大）
・一人称ライフログ映像からの顔検出に基づいた社会活動計測
奥野 茜、角 康之（はこだて未来大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

- ・Understanding the Fake Removal Information Advertisement Sites
Takashi Koide (NTT Secure Platform Lab. / Yokohama National Univ.)、
Daiki Chiba、Mitsuaki Akiyama (NTT Secure Platform Lab.)、
Katsunari Yoshioka、Tutomu Matsumoto (Yokohama National Univ.)

5. 業績賞 (3件15名、*：代表貢献者) [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会 (2022年6月) 表彰中止により] [業績賞選定委員会 (2022年3月)]

- ・「グラフデータから発見を導く説明可能AIの技術開発と実用化」
*丸橋弘治(富士通)、Au, Wing Yee(Fujitsu Research of America)、松尾 達(富士通)、
Tolmachev Arseny(ワークスアプリケーションズ)、西野琢也(富士通)
- ・「パスワードレス個人認証技術の研究開発、標準化、および、商用導入」
*五味秀仁、大神 渉、山口修司、伊藤雄哉、吉岡知彦(ヤフー)
- ・「公的統計として活用できる日本最大級の交通ビッグデータ：人口流動統計の開発と実用化」
*今井龍一(法政大/東大)、池田大造(NTTドコモ)、重高浩一、新階寛恭、関谷浩孝(国土交通省)

6. 情報処理技術研究開発賞 (1名) [賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会 (2022年6月) 表彰中止により] [情報処理技術研究開発賞選定委員会 (2022年1月)]

- ・前澤 陽(ヤマハ) 「人間の演奏者に同期する合奏システムの開発とその水平展開」

7. マイクロソフト情報学研究賞 (2名) [第84回全国大会 (2022年3月) 表彰] [マイクロソフト情報学研究賞選定委員会 (2022年1月)]

- ・畑 秀明(信州大) 「実証的ソフトウェア工学における研究」
- ・矢谷浩司(東大) 「ユーザの主たるインタラクションに融合するセキュリティインタフェース」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research (1名) [第84回全国大会 (2022年3月) 表彰 *2022年6月 ACM Award Banquet招待] [IPSJ/ACM審査会 (2022年1月)]

- ・杉浦裕太(慶大) 「Next-Gen Ubiquitous User Interface Design Permeated in Everybody's Daily Life」

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award (3名) [IEEE COMPSAC2022 (2022年6-7月) 表彰 *第84回全国大会 (2022年3月) 発表] [IPSJ/IEEE-CS審査会 (2022年1月)]

- ・秋山満昭(NTT) 「Research on Offensive Cybersecurity Measurement and Countermeasure」
- ・内山 彰(阪大) 「Research on Context Recognition by Multimodal Sensors」
- ・米澤拓郎(名大) 「Outstanding Research on Sensing and Application Platform for Urban Computing」

10. 山下記念研究賞 (54編) [賞状等発送をもって表彰 *第83回全国大会オンライン開催により] [各領域委員会 (2021年7月)]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・TIN上での空間的スカイライン問合せ [DBS] 笠井雄太 (LINE)
- ・動的なソーシャルネットワークにおける興味関心の伝搬を考慮した将来予測モデル [DBS] 伊藤寛祥 (筑波大)
- ・深層学習と遺伝的アルゴリズムを用いたプログラム自動生成 [SE] 倉林利行 (NTT)
- ・メソッド抽出リファクタリング推薦手法に対するメソッド名予測を用いた精度改善の試み [SE] 山中仁斗 (筑波大)
- ・プリフェッチ距離の性質に着目した命令プリフェッチャ [ARC] 中村朋生 (東大)
- ・Unikerネルを用いたコンテナのためのハイパーバイザによる軽量高セキュアな実行基盤の検討 [OS] 肥沼 健 (ハウテレビジョン)
- ・実回路の経年速度劣化測定結果の環境変動補正手法 [SLDM] 島村光太郎 (日立)
- ・Quantization Techniques for Small Number of Bits in Transformer based Natural Language Processing [SLDM] 丁 一 (無所属)
- ・スーパーコンピュータCygnus上におけるFPGA間パイプライン通信の性能評価 [HPC] 藤田典久 (筑波大)
- ・適応的分割法によるPARADISの高速化 [HPC] 尾城拓真 (慶大)
- ・フラット項書き換えシステムにおける正規形の一意性に関する性質の決定不能性 [PRO] 佐藤悠稀 (三菱UFJインフォメーションテクノロジー)
- ・Sorting by Five Prefix Reversals [AL] 山中克久 (岩手大)
- ・Towards a Functional Reactive Programming Model for Developing WSANs [EMB] 渡部卓雄 (東工大)
- ・Classical verification of quantum computing with trusted center [QS] 森前智行 (京大)

<情報環境領域>

- ・高次元データ多クラス識別問題におけるGBDTライブラリの実装と改善 [DPS] 藤野知之 (NTTソフトウェアイノベーションセンター)
- ・路側設置振動センサによる交通量推定システムの検討 [DPS] 吉田 誠 (オンキヨー)
- ・色差を考慮した量的データ表現用グラデーションの作成ツール [HCI] 三末和男 (筑波大)
- ・在宅勤務が職場の関係性及びメンタルヘルスに及ぼす影響 [HCI] 赤堀 渉 (NTT)
- ・IoTデバイスを用いた大浴場混雑可視化システムのリリース・運用についての事例報告 [IS] 眞鍋 悠 (星野リゾート)

- ・網羅性を重視した学術論文に対する検索手法 [IFAT] 福田悟志 (中央大)
- ・Occlusion aware Facial Landmark Detection based Facial Expression Recognition with Face Mask [AVM] 楊 博 (KDDI総研)
- ・情報の信頼性への関心を高める流言注意喚起ボットの開発 [GN] 西村涼太 (和歌山大)
- ・地域コミュニティにおけるドキュメントコミュニケーションに関する一考察 [DC] 秋元良仁 (国立本店)
- ・SD-RoFネットワークの設計と実装 [MBL] 相浦一樹 (阪大)
- ・受動的かつ不完全なセキュリティログ情報を用いたネットワーク構成情報検証手法 [CSEC] 上川先之 (NTTテクノクロス)
- ・スクリプト実行環境に対するテイント解析機能の自動付与手法 [CSEC] 碓井利宣 (NTT)
- ・遅延の傾向を反映したLSTMによる列車遅延予測手法 [ITS] 辰井大祐 (鉄道総研)
- ・複数レシピで並行調理する際の調理環境に応じた最適調理手順作成法と評価 [UBI] 中部 仁 (楽天グループ)
- ・行動認識ニューラルネットの理解に向けたActivation Maximizationの活用に関する検討 [UBI] 吉村直也 (阪大)
- ・分散コンピューティング基盤における宣言的構成管理の適用可能性と論点 [IOT] 真壁 徹 (日本マイクロソフト)
- ・教室でのオンライン講義受講のための無線接続環境評価 [IOT] 石原知洋 (東大)
- ・日本国内における児童向けセキュリティ教材の実態調査 [SPT] 坪根 恵 (早大)
- ・IEEE 802.19.3 Standardization for Coexistence of IEEE 802.11ah and IEEE 802.15.4g Systems in Sub-1 GHz Frequency Bands [CDS] 永井幸政 (三菱電機)
- ・Smart Layer Splitter:pix2pixを用いたデジタルイラスト制作の色塗り工程における自動レイヤ分けシステム [DCC] 渡邊 優 (無所属)
- ・ライブ配信動画に同期して点灯制御が可能なLED表示装置の実証実験について [DCC] 柳沢 豊 (mplusplus)
- ・深層学習による車いす使用者向け経路探索のための路面評価に関する研究 [ASD] 隅田康明 (九産大)

<メディア知能情報領域>

- ・潜在的なトピック構造を捉えた生成型教師なし意見要約 [NL] 磯沼 大 (東大)
- ・マルチエージェント深層強化学習を用いたライドシェアのサービスエリア制御とスケラビリティの確保 [ICS] 吉田直樹 (モリカトロン)
- ・未知散乱条件下での深層学習によるMulti-view Stereo [CVIM] 藤村友貴 (奈良先端大)
- ・空間周波数損失を用いた畳み込みニューラルネットワークの学習 [CVIM] 市村直幸 (産総研)
- ・毛のレンダリングのための効率的な重点的サンプリング [CG] 芝池祐星 (和歌山大)
- ・新入生を対象としたプログラミング入門科目におけるオンライン授業と教室授業の実践比較 [CE] 鈴木大助 (北陸大)
- ・FPGAを用いた論理回路設計実験の遠隔実践 [CE] 赤池英夫 (電通大)
- ・日本中世絵巻における性差の描き分けーIIIF Curation Platformを活用したGM法による『遊行上人縁起絵巻』の様式分析 [CH] 鈴木親彦 (人文学オープンデータ共同利用センター)
- ・音色変動の変分モデルによる楽音生成 [MUS] 増田尚建 (東大)
- ・BERT によるSequence-to-Sequence 音声認識への知識蒸留 [SLP] 二見 颯 (京大)
- ・テレビ録画とその字幕を利用した大規模日本語音声コーパスの構築 [SLP] 安藤慎太郎 (アマゾンウェブサービスジャパン)
- ・欧米における侵害通知の状況と日本への示唆 [EIP] 金子啓子 (大阪経済大)
- ・Quixoの強解決 [GI] 田中 智 (ユーザーローカル)
- ・けん玉できた！VR：5分間程度のVRトレーニングによってけん玉の技の習得を支援するシステム [EC] 川崎仁史 (イマクリエイト)
- ・わんテーブル：犬と人が食体験を共有するための匂い伝送システム [EC] 星野瑠海 (ベネフィット・ワン)
- ・GBDTによる化合物の血液胎盤関門透過性予測 [BIO] 大上雅史 (東工大)
- ・学生のレポート評価点に応じた学習活動フィードバックを行うシステムの検討 [GLE] 青木大誠 (九大)
- ・在宅認知症者を支援する「拡張認知機能」の提案～スマートエアリアルハンド：Sahasraの構想～ [AI] 中山功一 (佐賀大)

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

[賞状等授与、発送をもって表彰 *第84回全国大会ハイブリッド開催により] [第83回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2021年6月)]

(1) 大会優秀賞 (10名)

- ・五十嵐治雄 (早大)
- ・岩崎允宣 (島根大)
- ・宇衛穂乃実 (和歌山大)
- ・大山 基樹 (名大)
- ・小池 伸 (トヨタ自動車)
- ・小嶋美咲 (名大)
- ・関口 知生 (芝浦工大)
- ・宅野 亮 (東京農工大)
- ・東 晃希 (芝浦工大)
- ・横山達也 (三菱電機)

(2) 大会奨励賞 (9名)

- ・磯井菜那 (お茶の水女子大)
- ・国方詩織 (東京農工大)
- ・小久保袖真 (筑波大)
- ・瀧 日悠雅 (武蔵野大)
- ・西澤健将 (芝浦工大)
- ・西原大貴 (阪大)
- ・付 高和 (芝浦工大)
- ・藤江涼太 (東京農工大)
- ・松本茉倫 (お茶の水女子大)

(1) 優秀教材賞(2件)

- ・床井浩平(和歌山大) 「DCGプログラミングとデジタルコンテンツ制作演習教材」
- ・喜多一、森村吉貴、岡本雅子(京:「Pythonプログラミング学習のための教科書の作成と無料公開」)

13. 若手奨励賞(17件)

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会(2021年4月~2022年3月)]

<第27回スーパーコンピューティングコンテスト(2021年8月)>

- ・Citrus 蜂矢倫久、増田拓真、飯沢海(灘高等学校)

<第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2021年10月)課題部門>

- ・学食養食一遠隔で養殖について学び、地域産業を体験し理解するー
木下涼太、濱口宝、正住将太、姫子松寛大、小山飛翔(鳥羽商船高等専門学校)

<第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2021年10月)自由部門>

- ・Smart Gatheringー未来の農業はもっと賢くー
山田竜輝、オック オドム、岡村一矢、田口創、初崎雛希(大島商船高等専門学校)

<ETロボコン2021 プログラミング部門(2021年11月)>

- ・KatLab 比、菅健将、有馬薫、上田高寛、萩山恒威、内山大和、児玉純輝、樋口裕翔、宮下文明(宮崎大学)

<パソコン甲子園2021 プログラミング部門(2021年11月)>

- ・Dynamic 加藤潤成、菅井遼明(渋谷教育学園渋谷高等学校)
- ・KobLa 田中優希、児玉大樹(灘高等学校校)
- ・ひよこなめくじ 松尾凜太郎、杉山衣吹(麻布高等学校)

<パソコン甲子園2021 モバイル部門(2021年11月)>

- ・うし食時代 神田慧悟、上原直人(開成高等学校)

<第2回日本情報オリンピック女性部門(2022年3月)>

- ・大野 菜(筑波大学附属高等学校) ・山下 結菜(東京都立小石川中等教育学校) ・藤居 星(札幌市立あいの里東中学校)

<第21回日本情報オリンピック(2021年3月)>

- ・田中 優希(灘高等学校) ・西脇 響喜(筑波大学附属駒場高等学校) ・児玉 大樹(灘高等学校)

<中高生情報学研究コンテスト(2022年3月)>

- ・スマート盲導杖「道しる兵衛」~AI搭載白杖による視覚障害者歩行支援~ 高田悠希(群馬県立高崎高等学校)
- ・バーコード読み取りを利用した「ゴミ分別促進アプリ」の開発 西住 悠(追手門学院大手前高等学校)
- ・Dynamic Questioning: 強化学習を用いた生徒の学習意欲維持と学習の効率化を両立する出題アルゴ'若野泰生(熊本県立宇土高等学校)

14. 学会活動貢献賞/感謝状

[賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会(2022年6月)表彰中止により] [経営企画委員会(2022年1月他)]

(1) 学会活動貢献賞:「学会誌における編集業務への貢献」(1名)

- ・袖美樹子(国際高等専門学校)

(2) 学会活動貢献賞:「論文誌への査読貢献」(3名)

- ・梶 克彦(愛知工業大) ・柴田直樹(奈良先端大) ・木原民雄(デジタルハリウッド大)

(3) 学会活動貢献賞:「情報入試委員会への貢献」(1名)

- ・角田博保(電通大)

(4) 学会活動貢献賞:「FIT2021第20回情報科学技術フォーラム開催への貢献」(1名)

- ・岩谷幸雄(東北学院大)

(5) 学会活動貢献賞:「第83回全国大会開催への貢献」(1名)

- ・井上克郎(阪大)

(6) 感謝状:「学会誌(編集委員長)への貢献」(1名)

- ・稲見昌彦(東大)

(7) 感謝状:「アドバイザーボード(座長)への貢献」(1名)

- ・永井良三(自治医科大)

(8) 感謝状:「学会誌における編集業務(副編集長)への貢献」(2名)

- ・大山恵弘(筑波大) ・中田真城子(エムプラスプラス)

- (9) 感謝状：「プログラミングコンテスト SamurAI Coding 運営への貢献」(1件4名)
 ・近山 隆 (UHM)、鷺崎弘宜 (早大)、平石 拓 (京都橋大)、横山大作 (明治大)
- (10) 感謝状：「本会の情報教育の取組みへの貢献」(1名)
 ・小原 格 (都立町田高教諭)

15. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

<北海道>

- (1) 研究奨励賞 (3名) ・岸本佳樹 ・栗谷川知紀 ・茅根宏介
 (2) 学術研究賞 (2件) ・板倉和真、野田五十樹、小山 聡
 ・安達正規、高井昌彰、飯田勝吉、高井那美
 (3) 技術研究賞 (1件) ・細川万維、横山想一郎、山下倫央、川村秀憲、関屋英理子
 (4) 優秀プレゼンテーション賞 (1名) ・阿部涼介
 (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・釜石健太郎 ・築山大地 ・葛西彪斗

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (15名) ・伊藤大修 ・菊地亮太 ・橋本涼平 ・小林正路 ・佐藤 響 ・関本快士 ・本田光来
 ・岸端晃毅 ・小野寺啓 ・工藤遼太郎 ・竹内健次郎 ・岸波洋介 ・高橋晋平
 ・大波 奨 ・小林浩輔
 (2) 奨励賞 (5名) ・柳田琢社 ・鈴木 光 ・伊藤雅基 ・石崎 瞭 ・伊東慎平
 (3) 野口研究奨励賞 (1名) ・宮原大輝

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (2名)
 ・按田将吾 ・竹本碧
 (2) 学生論文奨励賞 (6名)
 ・白木克俊 ・小栗真弥 ・鈴木貴仁 ・高田雅之 ・矢原裕大 ・伊藤弘将

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (7名) ・藤田良介 ・勝見優介 ・坂田拓美 ・魏 赫 ・青木菜衣 ・山崎晃平 ・倉田晃太郎
 (2) 優秀学生表彰 (12名) ・谷口穂南 ・大田涼輔 ・清水 陸 ・何 玥彤 ・清水謙仁郎 ・常田友貴
 ・若林敬人 ・戸澗いずみ ・小林公聖 ・山越 拓也 ・瀬川拓海 ・高田詩麻

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (6名) ・小西杏奈 ・河中昌樹 ・真弓大輝 ・國廣美桜 ・草竹大暉 ・佐瀬凌太

<中国>

- (1) 優秀論文発表賞 (5名) ・赤城大吉 ・山下竜太 ・秦 将裕 ・島田恭宏 ・岩本太吉
 (2) 奨励賞 (4名) ・岡山 凌 ・西本美優 ・森本水月 ・北倉奈菜

<四国>

- (1) 奨励賞 (50名) ・岡本滉平 ・橋本英季 ・黒田勇斗 ・河相知宏 ・山本恵輔 ・浅沼和希
 ・大西伊吹 ・川人俊介 ・小森公兵 ・松田知也 ・齋藤将輝 ・吉田基信
 ・尾崎翔太 ・磯崎剛志 ・大野愛佳 ・野本楓晟 ・福田圭輔 ・中村実典
 ・矢谷鷹将 ・内田雄大 ・井木祐輔 ・平山鷹哉 ・村林真衣 ・大和田武志
 ・米田昇平 ・竹林和真 ・山本凌平 ・久保田留奈 ・秋山美穂 ・中 真咲
 ・青木舜典 ・庄野 樹 ・中山陽太 ・岸 智輝 ・山崎莉槻 ・高橋李玖
 ・小松 颯 ・豊崎玲音 ・竹内洸稀 ・山下聖人 ・蓮池郁也 ・土居拓永
 ・岩瀬佑太 ・大西陽向 ・高橋尚大 ・漆原和輝 ・浦上大世 ・藤原いづき
 ・中神悠太 ・石川敬太

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 (6名) ・安住祐輝 ・重安勇輝 ・大峠仁輝 ・安河内直哉 ・岡本遼太 ・川原弘暉
 (2) 奨励賞-火の国シボ (5名) ・西 結人 ・上田高寛 ・今村隆輝 ・永井麻裕 ・濱池祐哉

17. ソフトウエアジャパンアワード (2名)

[賞状等発送をもって表彰 *2022年度定時総会 (2022年6月) 表彰中止] [技術応用運営委員会 (2022年3月)]

- ・飛沫・エアロゾル拡散シミュレーションによる新型コロナウイルス感染リスク評価 坪倉 誠 (神戸大/理研)
 ・シン・テレワークシステム等の開発・普及 登 大遊 (産業サイバーセキュリティセンター)

18. FIT関連の各賞

- (1) FIT2021船井業績賞（1名）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2021(2021年8月)表彰] [FIT船井業績賞選定委員会（2020年9月）]
・ Shree K. Nayar (T. C. Chang Chaired Professor, Computer Science, Columbia University)
- (2) FIT2021船井ベストペーパー賞（3件）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2022(2022年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2021年11月）]
・ レアなモーラを含む日本語歌唱データベースの構築と基礎評価
森勢将雅（明大）・藤本 健（フラクタル・デザイン）・小岩井ことり（ピアレスガーベラ）
・ 間違えのある繰り返し囚人のジレンマにおける方策勾配法に関する研究
坂本充生（電通大）・阿部拳之（サイバーエージェント）・岩崎 敦（電通大）
・ モダリティ融合に基づく感情認識・潜在表現単一化による感情の数理的表現:モダリティ疑似欠損下での感情空間の表現力
原田誠一・佐久間拓人・加藤昇平（名古屋工大）
- (3) FIT2021論文賞（8件） [FIT2022(2022年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2021年11月）]
・ アンケートデータを対象とした傾向抽出手法と評価 岡本大輝・後藤 淳（NHK）
・ 特徴選択を導入した低・ゼロ頻度N-gram の効率的な尤度比推定法
菊地真人（名古屋工大）・吉田光男・梅村恭司（豊橋技科大）・大園忠親（名古屋工大）
・ ほぼ公的観測下の囚人のジレンマにおける協力のダイナミクス 五十嵐瞭平・岩崎 敦（電通大）
・ Hessian-Free法を用いたEcho State Networkの構造探索
濱地優輝・平川 翼・山下隆義・藤吉弘直（中部大）・山口 裕（福岡工大）・津田一郎（中部大）
・ 詳細画像分類におけるContrastive Learningの活用 大城慶知・遠藤聡志（琉球大）
・ バッファリング遅延を考慮した低消費電力ネットワーク制御の性能評価
高瀬優人・中山 明（福島大）・ザビル・サラウッディン・ムハマド・サリム（鶴岡高専）・内海哲史（福島大）
・ 攻撃ユーザプロセスの利用するカーネルコードの追跡と特定手法の提案と評価 葛野弘樹（セコム）、山内利宏（岡山大）
・ 高次統計量を用いた高速ブラインド等化器 武山尚生・三次 仁（慶大）
- (4) FIT2021ヤングリサーチャー賞（7名） [FIT2022(2022年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2021年11月）]
・ 大森 優也（NTT） ・ 井上 沙紀（関西学院大） ・ 菅野 大和（筑波大） ・ 武田 一輝（横浜国大）
・ 瀧口 徹（NHK） ・ 細谷 慶人（早大） ・ 飯棲 俊介（木更津高専）

19. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞（3名） [情報規格調査会総会（2021年5月）表彰] [情報規格調査会]
・ 榎本義彦（日本IBM） ・ 金子 格（東北大） ・ 谷口昭史（パイオニア）
- (2) 標準化顕功賞（該当なし） [情報規格調査会総会（2021年5月）表彰] [情報規格調査会]
- (3) 標準化貢献賞（5名） [情報規格調査会総会（2021年5月）表彰] [情報規格調査会]
・ 菊池奈穂美（沖電気工業） ・ 小池真由美（情報処理学会） ・ 高村誠之（NTT） ・ 安田 幹（NTT）
・ 星沢 拓（日立エルジーデータストレージ）
- (4) 国際規格開発賞（25名：20件） [情報規格調査会 技術委員会（2021年4月～2022年3月）表彰] [情報規格調査会]
・ 藪田和夫 ・ 山田浩之（クライム） ・ 横谷哲也（金沢工大） ・ 照山勝幸（ソニー）
・ 谷津行穂 ・ 中島 毅（芝浦工大） ・ 原田要之助（情報セキュリティ大学院大）
・ 知念 徹（ソニーグループ） ・ 石川孝明（キヤノン） ・ 中中央二（ソニーグループ） ・ 鄭 育昌（富士通）
・ 鷺崎弘直（早大） ・ 辛 星漢（産総研） ・ 古原和邦（産総研） ・ 浜 壮一（富士通）
・ 緒方日佐男（日立チャンネルソリューションズ） ・ 新崎 卓（富士通） ・ 山田朝彦（産総研）
・ 宇野雅博（ソニーセミコンダクタソリューションズ） ・ 久保野文夫（QUADRAC） ・ 木下佳樹（神奈川大）
・ 鈴木輝彦（ソニーグループ） ・ 種田圭吾（富士通） ・ 岸田知二（早大） ・ 野田夏子（芝浦工大）
- (5) 産業標準化事業表彰 [産業標準化表彰式（2021年10月）表彰] [経済産業省]
・ 産業標準化事業表彰(個人)（経済産業大臣表彰）：谷口昭史（パイオニア）
・ 産業標準化事業表彰(組織)（経済産業大臣表彰）：日本IBM
・ 国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）：石川孝明（キヤノン）
・ 国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）：市ヶ谷敦郎（NHK）
・ 国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）：河合和哉（産総研）
・ 国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）：渡辺友弘（デンソーウェーブ）

その他・附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上